証券コード 2222

2027年3月期
第2四半期（中間期）決算説明会資料

2026年 11月5日

喜びを創り喜びを提供する

寿スピリッツ

https://www.kotobukispirits.co.jp/

Copyright © Kotobuki Spirits Co.,Ltd. All rights reserved.

目次

■ 2027年3月期第2四半期（中間期）決算概要　P　1～22

■ 2027年3月期 業績予想　P　23～29

■ 今後の経営方針とセグメント別業績の概況　P　30～48

■ ESG関連情報　P　49～50

■ 株式の状況・株主還元　P　51～56

■ 参考情報　P　57～66

■ 熱狂的ファンづくりの取り組み事例　P　67～76

2027年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

※本資料中の金額は、「百万円未満切捨て」で記載しております。

業績ハイライト 2027年3月期 第2四半期（中間期）

2027年3月期 第2四半期（中間期）業績

売上高は10.8%増収、経常利益は22.9%増益

●売上高は、インバウンド売上高（国際線ターミナル売上高）が伸び悩んだ中、バリューアップ対策及び新規出店など積極的な施策推進により、10.8%増収で推移。

●商品力、販売力などのバリューアップによる価格改定効果などにより、売上総利益率が前年同期に対して1.7ポイント上昇が収益性向上に寄与。

トピックス① 東京駅エリアでの積極展開

「東京ミルクチーズ工場 グランスタ東京店」をリニューアルオープン。
新ブランド「Ivorish MAISON(アイボリッシュメゾン） 」をグランスタ東京にオープン。



【シュクレイ】2026年6月15日 OPEN
「東京ミルクチーズ工場 グランスタ東京店」



【九十九島グループ】2026年9月16日 OPEN
新ブランド「Ivorish MAISON（アイボリッシュメゾン）グランスタ東京店」

2026年7月2日、JR東京駅「グランスタ東京」東京駅限定 定番手土産スイーツ2026 売上ランキングTOP10が発表され、シュクレイがTOP3を独占。COCORIS（ココリス）は7年連続1位を受賞。



トピックス② シュクレイグループによる百貨店好立地での積極展開

新ブランド「MILLI MILLI(ミリ ミリ) 」を伊勢丹新宿店に、新ブランド「博多ORIOORI(オリオーリ)」を大丸福岡天神店にオープン。







2026年5月20日　OPEN　【シュクレイ】新ブランド
「MILLI MILLI(ミリ ミリ) 伊勢丹新宿店」







2026年5月20日　OPEN 【九十九島グループ】新ブランド
「博多ORIOORI(オリオーリ)大丸福岡天神店」

（ご参考）前期の百貨店好立地出店実績



2025年11月12日　OPEN 【シュクレイ】新ブランド
「SALTRA（ソルトラ）阪神梅田本店」



2025年11月21日　OPEN 【シュクレイ】新ブランド
「VANISTA（バニスタ）西武池袋本店」



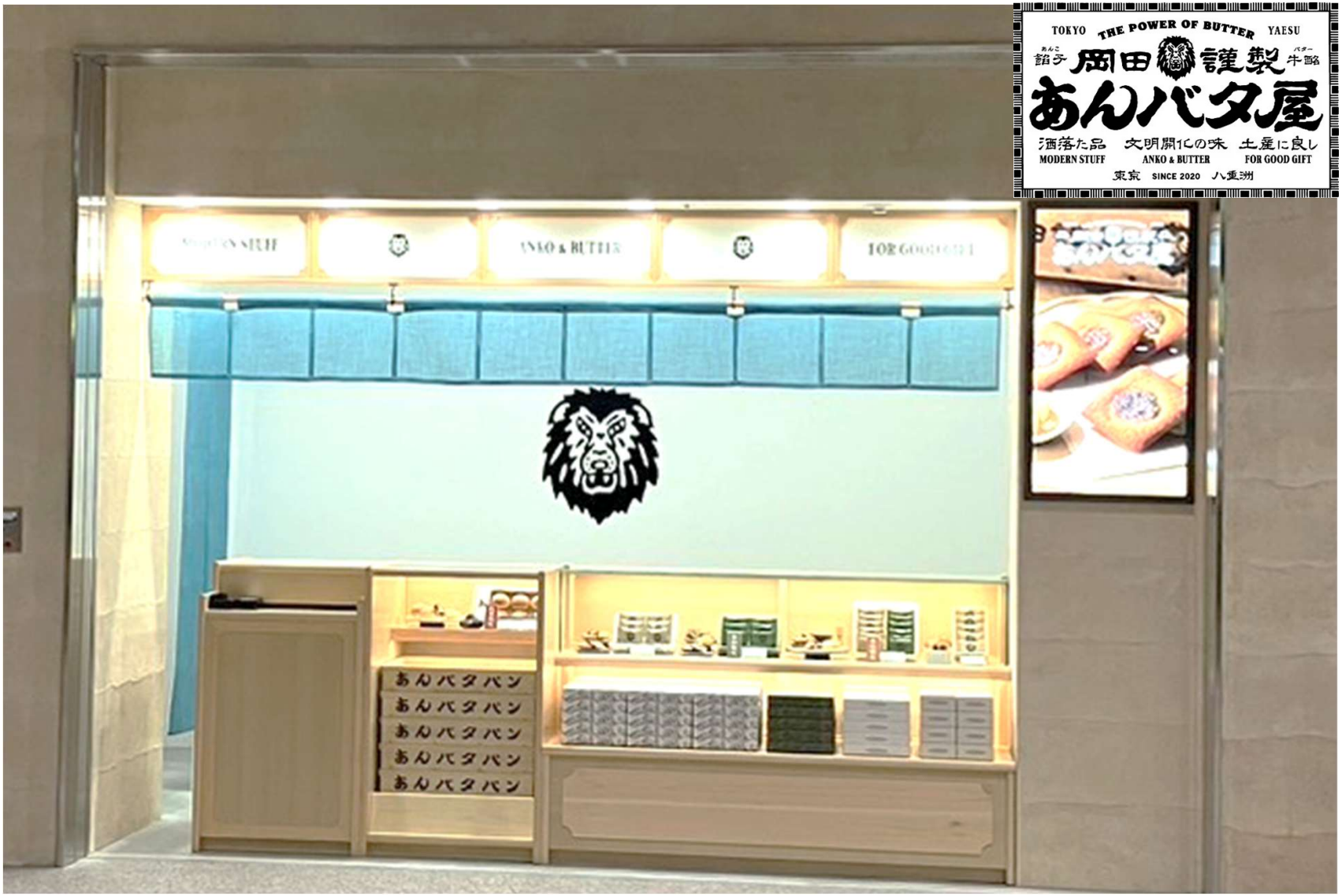
2026年2月18日　OPEN 【九十九島グループ】新ブランド
「HELLO MAPLI（ハローメイプリ）ジェイアール名古屋タカシマヤ店」



2026年3月28日　OPEN 【シュクレイ】新ブランド
「Shu Shu（シュシュ）そごう横浜店」

トピックス③ 新規出店情報

ケイシイシイグループが、「岡田謹製あんバタ屋 ルミネ大宮店」をオープン。



2026年4月23日 OPEN
「岡田謹製あんバタ屋 ルミネ大宮店」

寿製菓グループが、「newQ（ニューキュー） 那覇空港店」をオープン。



2026年6月21日 OPEN 「newQ（ニューキュー） 那覇空港店」

2027年3月期 第2四半期(中間期)業績(対前年同期)

売上高は前年同期比10.8%増収、経常利益は同22.9%増益

(百万円、%)	前第2四半期(中間期)(25年4月～9月)		当第2四半期(中間期)(26年4月～9月)		対前年同期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	35,787	—	39,651	—	3,863	10.8
売上総利益	21,526	60.1	24,488	61.8	2,962	13.8
販売管理費	14,085	39.4	15,335	38.7	1,250	8.9
営業利益	7,441	20.8	9,153	23.1	1,712	23.0
経常利益	7,517	21.0	9,236	23.3	1,718	22.9
中間純利益 (※)	5,016	14.0	6,045	15.2	1,029	20.5
EPS(円)	32.49		39.14		6.65	

(※)親会社株主に帰属する中間純利益

公表数字に対する達成率

売上高達成率103.5%、経常利益同112.4%

（百万円、%）	期初予想（※1）		当第2四半期(中間期)		対期初予想	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	達成率
売上高	38,300	—	39,651	—	1,351	103.5
売上総利益	23,320	60.9	24,488	61.8	1,168	105.0
販売管理費	15,130	39.5	15,335	38.7	205	101.4
営業利益	8,190	21.4	9,153	23.1	963	111.8
経常利益	8,220	21.5	9,236	23.3	1,016	112.4
中間純利益(※2)	5,500	14.4	6,045	15.2	545	109.9

（※1）期初予想は、2026年5月14日付公表数字
（※2）親会社株主に帰属する中間純利益

売上高（販売チャネル別）

国内小売は既存店の成長と新規出店効果などにより14.6%増収

（百万円、%）	前第2四半期(中間期)		当第2四半期（中間期）		対前年同期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	35,787	—	39,651	—	3,863	10.8
国内卸売	16,039	44.8	17,444	44.0	1,404	8.8
国内小売	16,596	46.4	19,018	48.0	2,421	14.6
通信販売	2,431	6.8	2,418	6.1	△ 12	△ 0.5
その他	3	0.0	4	0.0	0	5.3
国内計	35,071	98.0	38,885	98.1	3,813	10.9
海外卸売	452	1.3	433	1.1	△ 18	△ 4.0
海外小売	264	0.7	332	0.8	68	25.9
海外計	716	2.0	766	1.9	50	7.0

（注）国内卸売は、主に小売店向け卸（駅、空港、SAなど）、代理店卸、OEMなど/ 国内小売は、主に直営店舗、催事など
海外卸売は、海外FCに対する国内出荷売上＋ロイヤルティ/ 海外小売は、台湾子会社の売上/その他は損害保険代理業

補足① インバウンド売上高（国際線ターミナル売上高）

2027年3月期第2四半期のインバウンド売上は、前年同期比0.5%増収

（百万円）	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
2027年3月期	2,698	2,447			
2026年3月期	2,646	2,436	2,930	2,687	10,701
2025年3月期	2,305	2,338	2,765	2,613	10,022

2026年6月2日にオープンした関西国際空港第1ターミナル免税店（お菓子・食品エリア）に対して、グループが総力を挙げて売場を獲得。







補足②（海外売上の内訳）

【海外売上高】

（百万円、%）

	26年3月期（中間期）	27年3月期（中間期）	増減額	増減率
台湾（注1）	264	338	74	28.0
シンガポール	144	122	△ 21	△ 14.9
オーストラリア	180	139	△ 41	△ 22.9
その他	127	141	13	10.9
合計	716	766	50	7.0

（注1）台湾は連結子会社の現地売上と、OEM売上。他の地域はFC展開。





（台湾）
東京ミルクチーズ工場
台北ドーム店

2026年8月 オープン

売上原価・売上総利益

価格改定効果などにより売上総利益率は、1.7ポイント増加

（百万円、%）	前第2四半期(中間期)		当第2四半期(中間期)		対前年同期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	35,787	―	39,651	―	3,863	10.8
材料費	8,694	24.3	9,119	23.0	425	4.9
労務費	2,966	8.3	2,954	7.5	△ 12	△ 0.4
製造経費	1,729	4.8	1,838	4.6	108	6.3
製造原価計	13,391	37.4	13,913	35.1	522	3.9
その他	870	2.4	1,249	3.2	378	43.5
売上原価合計	14,261	39.9	15,162	38.2	900	6.3
売上総利益	21,526	60.1	24,488	61.8	2,962	13.8

販売管理費・営業利益

増収効果などにより販売管理費比率は、0.7ポイント減少

（百万円、%）	前第2四半期（中間期）		当第2四半期（中間期）		対前年同期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上総利益	21,526	60.1	24,488	61.8	2,962	13.8
人件費	5,282	14.8	5,449	13.7	166	3.1
販売促進費	2,302	6.4	2,685	6.8	382	16.6
運賃	1,256	3.5	1,287	3.2	30	2.5
広告宣伝費	258	0.7	353	0.9	94	36.7
地代家賃及び支払手数料	3,465	9.7	3,903	9.8	437	12.6
減価償却費	245	0.7	293	0.7	47	19.3
旅費交通費	240	0.7	238	0.6	△ 2	△ 0.9
その他	1,031	2.9	1,123	2.8	92	9.0
販売管理費	14,085	39.4	15,335	38.7	1,250	8.9
営業利益	7,441	20.8	9,153	23.1	1,712	23.0

セグメント別の業績（対前年同期）

全セグメントが増収増益

（百万円、%）	売上高				営業利益		
	26/3期（2Q）	27/3期（2Q）	増減額	増減率	26/3期（2Q）	27/3期（2Q）	増減額
シュクレイグループ	16,563	18,050	1,487	9.0	2,641	3,280	639
ケイシイシイグループ（注1）	10,272	11,140	867	8.4	1,830	2,328	497
寿製菓グループ	8,141	9,222	1,080	13.3	1,789	2,255	465
販売子会社	3,741	4,191	449	12.0	474	623	148
その他（注2）	310	366	56	18.1	5	10	5
セグメント計	39,030	42,972	3,941	10.1	6,742	8,497	1,755
調整額	△ 3,242	△ 3,320	△ 78	－	698	655	△ 43
合計	35,787	39,651	3,863	10.8	7,441	9,153	1,712

（注1）ケイシイシイは、2026年4月1日付で株式会社箱根ときのみを100%出資により設立したことに伴い、セグメント名称を「ケイシイシイグループ」に変更いたしました。
（注2）「その他」には、損害保険代理事業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれております。

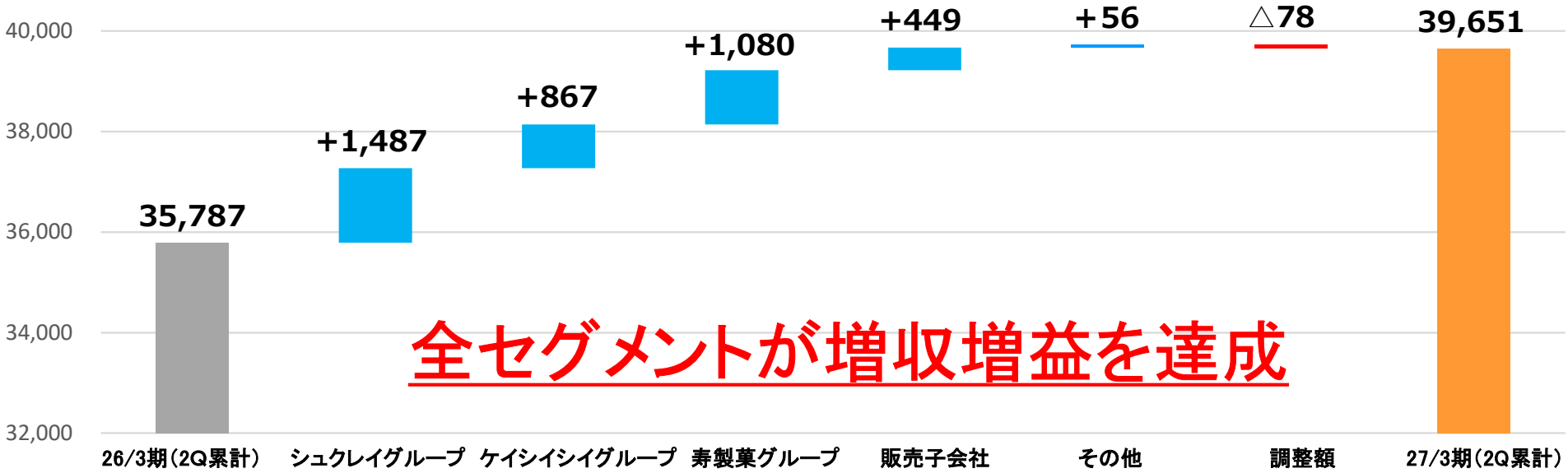
セグメント別業績の補足説明

シュクレイグループ	誕生10周年を迎えた「バターバトラー」のイベント展開や「東京ミルクチーズ工場」の15周年記念新商品「クワトロチーズクッキー」の発売など、各ブランドにおいて主力商品を軸に新商品を加え、ブランド訴求力の向上に取り組みました。福岡・長崎エリアでは、2025年12月に誕生した新博多土産「博ったらし」の卸展開や2026年4月には「タンテアニー」3店舗目となる長崎空港店の出店などに取り組みました。インバウンド対策では、国際線ターミナルでの売場拡大に向け、販売人員の増強や催事展開などに注力いたしました。出退店では、2026年5月に新ブランド「ミリミリ」を伊勢丹新宿店に、新ブランド「博多オリオーリ」を大丸福岡天神店に、それぞれ出店し、また、2026年9月には新ブランド「アイボリッシュ メゾン」をグランスタ東京に出店するなど、4店の出店及び1店の退店を行いました。
ケイシイシイグループ	「ルタオ」の更なるブランド価値の増大に向け、ルタオ札幌大丸店では限定新作スイーツ「ガレナッティ」の販売強化、また、ルタオ本店では限定商品「ロンドゥミエル」の販売強化など、各直営店において主力商品を軸に新作限定スイーツを順次発売し、ブランド訴求力の向上に取り組みました。インバウンド対策では、国際線ターミナルを中心に販売人員の増強や新ブランド「岡田謹製茶織屋」による催事展開などに注力いたしました。「ピスタアンドトーキョー」などの首都圏ブランドでは、ブランド認知度を高めるため、期間限定出店に注力いたしました。新規出店では、2026年4月に「岡田謹製あんバタ屋」ルミネ大宮店を出店いたしました。
寿製菓グループ	主力商品対策及び新商品開発に注力し、主要代理店及び販売子会社への提案営業を推進いたしました。沖縄エリアでは、主要代理店とタイアップしたOEM展開の推進や自社ブランドのパイナップルスイーツ専門店「ニューキュー」の展開強化などに取り組みました。また、「ニューキュー」2店舗目となる那覇空港店を2026年6月にオープンいたしました。地元の山陰地区では、製造ラインの更新により更に美味しさが増した主力商品「因幡の白うさぎ」を中心に売場提案を推進いたしました。
販売子会社	各販売拠点において主力商品対策及び地域特性にマッチした新商品の発売、インバウンド対策などに注力いたしました。エリア別では、東海地区は、15周年を迎えた主力商品「小倉トーストラングドシャ」の販売強化、関西地区は、新商品「大阪とらさんど」の発売や主力商品「神戸三宮フレンチトーストラングドシャ」の販売強化などに取り組みました。また、福岡地区では、「博多まっかな苺」ブランドの展開強化及び新商品の博多料亭 稚加榮「明太天ぷらせんべい」の販売強化などに取り組みました。

売上高／営業利益増減分析（対前年同期）

（売上高）

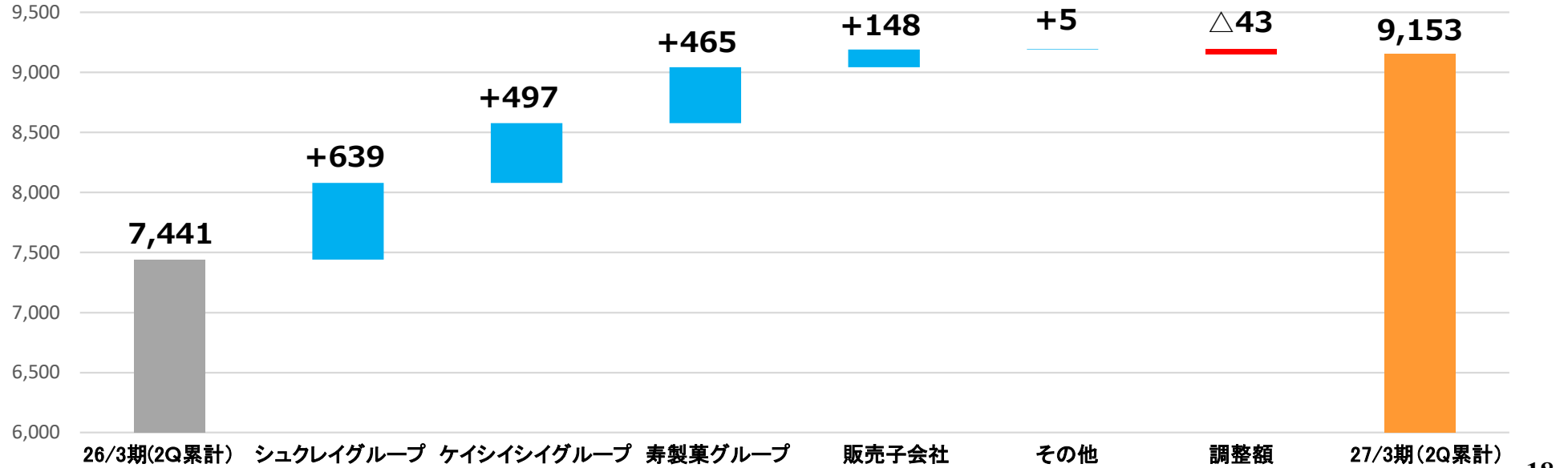
（単位：百万円）



全セグメントが増収増益を達成

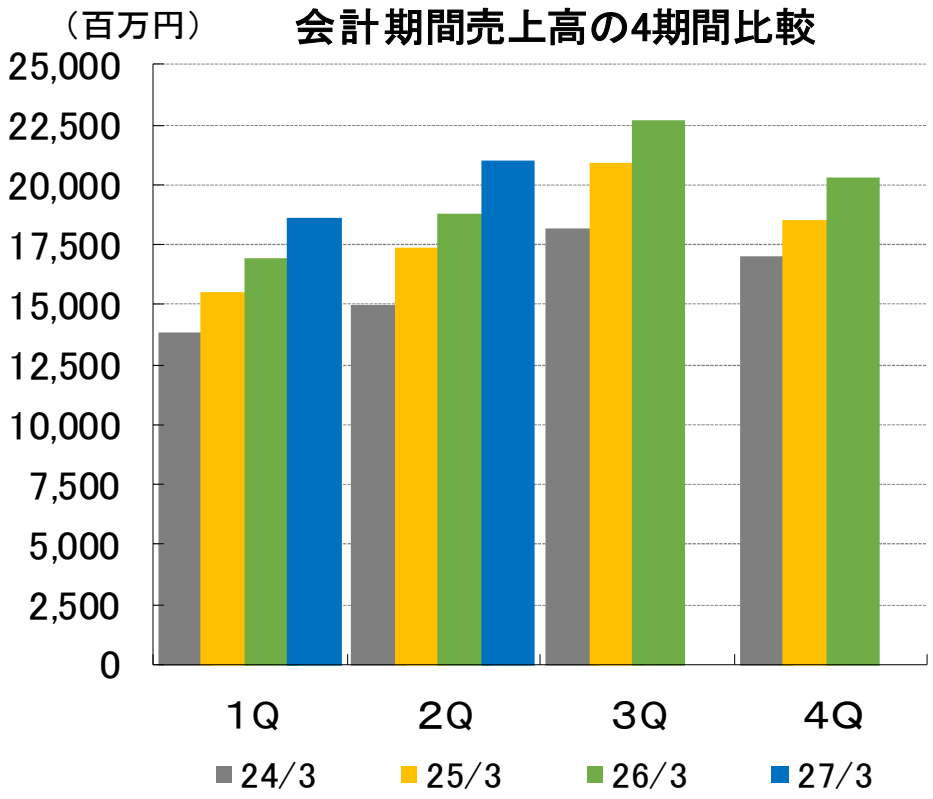
（営業利益）

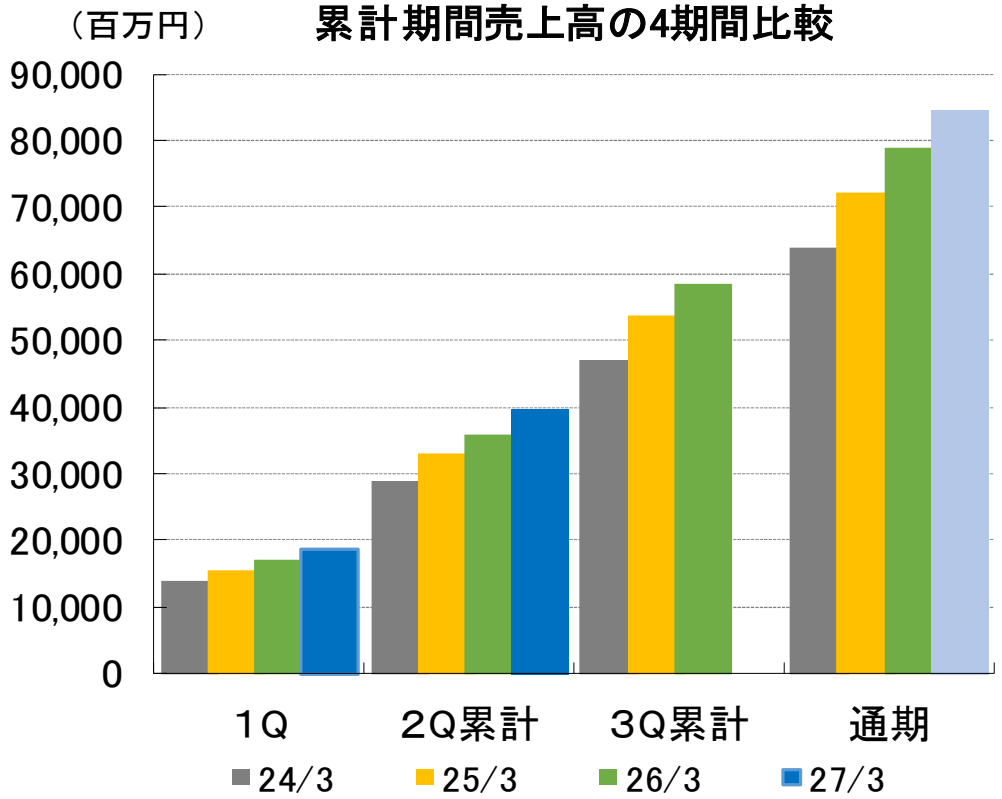
（単位：百万円）



四半期業績の推移（売上高）

（2Q会計）対前年同期比11.5%増収



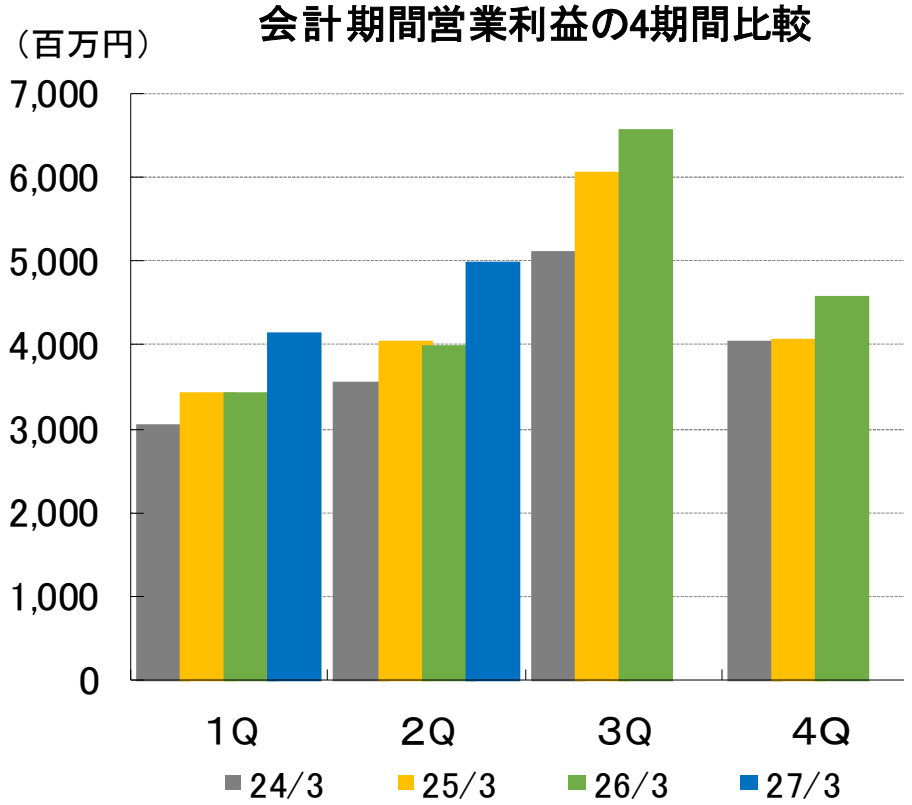


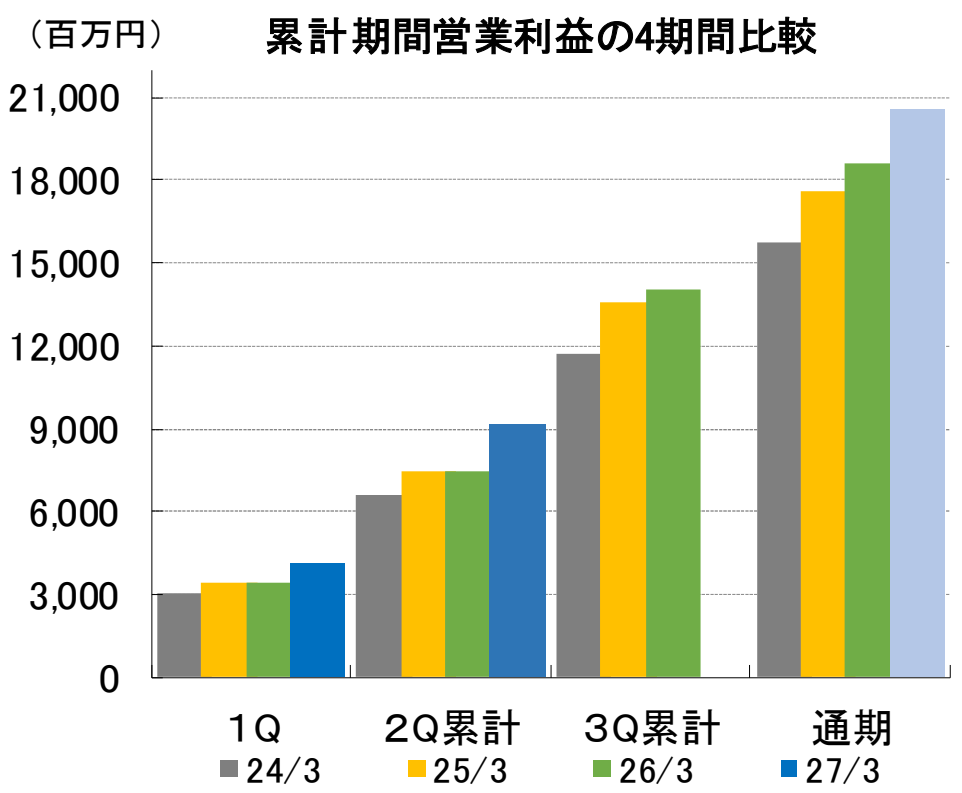
（百万円）	会計期間				累計期間			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q累計	3Q累計	通期
24/3	13,853	15,037	18,144	16,999	13,853	28,891	47,036	64,035
25/3	15,526	17,379	20,901	18,541	15,526	32,906	53,807	72,349
26/3	16,976	18,811	22,697	20,295	16,976	35,787	58,485	78,781
27/3	18,668	20,983			18,668	39,651		84,500
対前年	110.0%	111.5%			110.0%	110.8%		107.3%

27/3期 通期は予想数値

四半期業績の推移（営業利益）

（2Q会計）対前年同期比25.0%増益





	会計期間				累計期間			
（百万円）	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q累計	3Q累計	通期
24/3	3,058	3,563	5,111	4,046	3,058	6,622	11,734	15,780
25/3	3,428	4,048	6,069	4,065	3,428	7,476	13,545	17,610
26/3	3,439	4,001	6,570	4,586	3,439	7,441	14,011	18,598
27/3	4,152	5,001			4,152	9,153		20,550
対前年	120.7%	125.0%			120.7%	123.0%		110.5%

27/3期 通期は予想数値

貸借対照表

固定資産の増加は、設備投資に伴う有形固定資産の増加によるもの

（百万円、%）	25年3月期		26年3月期		27年3月期(2Q)		対前期末	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動資産	37,649	72.4	44,775	74.4	43,335	71.8	△ 1,439	△ 3.2
固定資産	14,331	27.6	15,367	25.6	16,995	28.2	1,627	10.6
資産合計	51,980	100.0	60,142	100.0	60,330	100.0	187	0.3
流動負債	9,735	18.7	10,102	16.8	9,402	15.6	△ 700	△ 6.9
固定負債	2,158	4.2	2,103	3.5	2,172	3.6	69	3.3
負債合計	11,894	22.9	12,206	20.3	11,575	19.2	△ 630	△ 5.2
純資産	40,085	77.1	47,936	79.7	48,755	80.8	818	1.7
負債純資産合計	51,980	100.0	60,142	100.0	60,330	100.0	187	0.3
BPS（円）	259.67		310.37		315.55		5.18	1.7
設備投資額	3,357		2,570		2,226		－	－
減価償却費	1,462		1,691		856		－	－

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ中間期末残高は前年同期比1.6%減少

（百万円、%）	25年3月期	26年3月期		27年3月期	対前年同期	
	通期	中間期	通期	中間期	増減額	増減率
営業活動CF	13,204	5,263	13,801	7,200	1,936	36.8
投資活動CF	△ 3,438	△ 3,353	△ 5,451	△ 8,574	△ 5,221	155.7
フリーCF	9,766	1,910	8,350	△ 1,374	△ 3,284	△ 171.9
財務活動CF	△ 7,372	△ 5,242	△ 5,241	△ 5,407	△ 165	3.2
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 5	8	10	△ 0	△ 8	－
cash増減	2,388	△ 3,322	3,119	△ 6,781	△ 3,458	－
cash期首	22,689	25,081	25,081	28,200	3,119	12.4
連結範囲の変更に伴う増減額	3	－	－	－	－	－
cash期末	25,081	21,758	28,200	21,418	△ 339	△ 1.6

（注）投資活動によるキャッシュフローの使用資金の増加は、主に定期預金の預け入れが増加したことによるもの

2027年3月期 業績予想

※業績予想は2026年5月14日付で公表した予想から変更はありません。

2027年3月期 業績予想の補足説明

●予想スタンス	業績は、概ね予想どおりの進捗で推移しており、通期の業績予想は据え置いている。依然として不透明な事業環境が続くものと見込まれる中、当社グループは、2年目となる中期経営目標「Value Up Vision2030」のもと、事業施策を推進し、更なる増収・増益を目指していく。
●出退店等	27/3期の出退店は、上期は6店舗の出店及び1店舗の退店を実施。下期は、2店舗の出店を予定。（内、1店舗は10月に岡田謹製茶織屋東京ギフトパレット店を出店。また、新ブランド「箱根ときのみ」をオープン予定。）
●設備投資等	設備投資計画は、期初予想から変更なし。宮古島新工場及び既存工場の製造設備の更新・取得をメインに40億円を予定。なお、沖縄県宮古島市の新工場は27年6月稼働予定で総投資額は29億円を予定。

「株式会社箱根ときのみ」

KCCは、箱根町が公募した旧「箱根芦之湯フラワーセンター」の運営事業者に選定されました。
北海道小樽市において小樽洋菓子舗ルタオの展開などを手掛けてきたノウハウを活かし、本物件を本店とする新たな菓子ブランドを準備中となります。箱根の自然と調和した世界観を持つ施設として再生し、観光リピーター創出に貢献してまいります。



物販棟：物販・テイクアウト　※画像はイメージです



カフェ棟：森のカフェ　※画像はイメージです

「株式会社ケーエムエフ」

寿製菓は、更なる沖縄展開の強化に向けて、沖縄県宮古島に新工場を設置
2027年6月の生産稼働開始に向けて準備を進めてまいります。



【施設概要】
敷地面積：8910平方メートル
工場面積：約3000平方メートル

【今後のスケジュール(予定)】
2027年2月：建物完成
2027年6月：工場稼働開始

【生産能力】
売上50億円規模

【生産品目】
サンドクッキー
フィナンシェ
タルト他





2027年3月期 業績予想（対前期）

売上高 前期比7.3%増、営業利益 同10.5%増

（百万円、%）	26年3月期		27年3月期(予想)		対前期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	78,781	－	84,500	－	5,718	7.3
売上総利益	48,388	61.4	52,520	62.2	4,131	8.5
販売管理費	29,789	37.8	31,970	37.8	2,180	7.3
営業利益	18,598	23.6	20,550	24.3	1,951	10.5
経常利益	18,733	23.8	20,610	24.4	1,876	10.0
当期純利益（※）	12,557	15.9	13,810	16.3	1,252	10.0
EPS（円）	81.32		89.42		8.10	10.0
1株当たり配当金（円）	35.00		45.00		10.0	28.6
設備投資	2,570		4,000		1,429	55.6
減価償却費	1,691		1,750		58	3.5

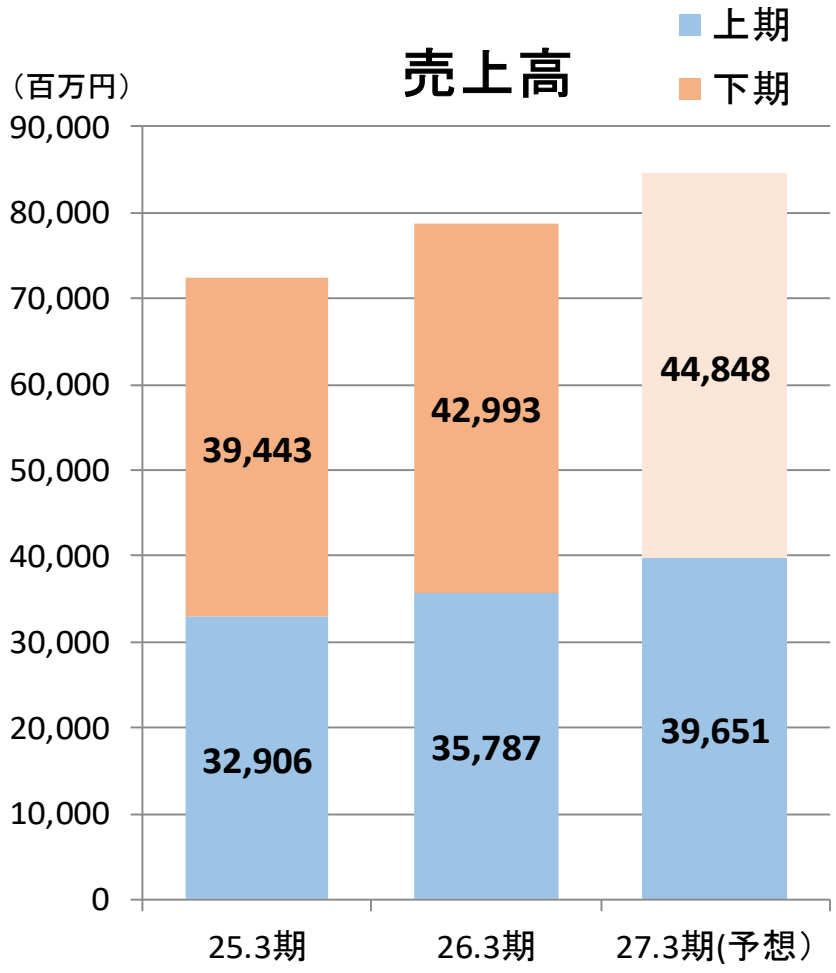
（※）親会社株主に帰属する当期純利益

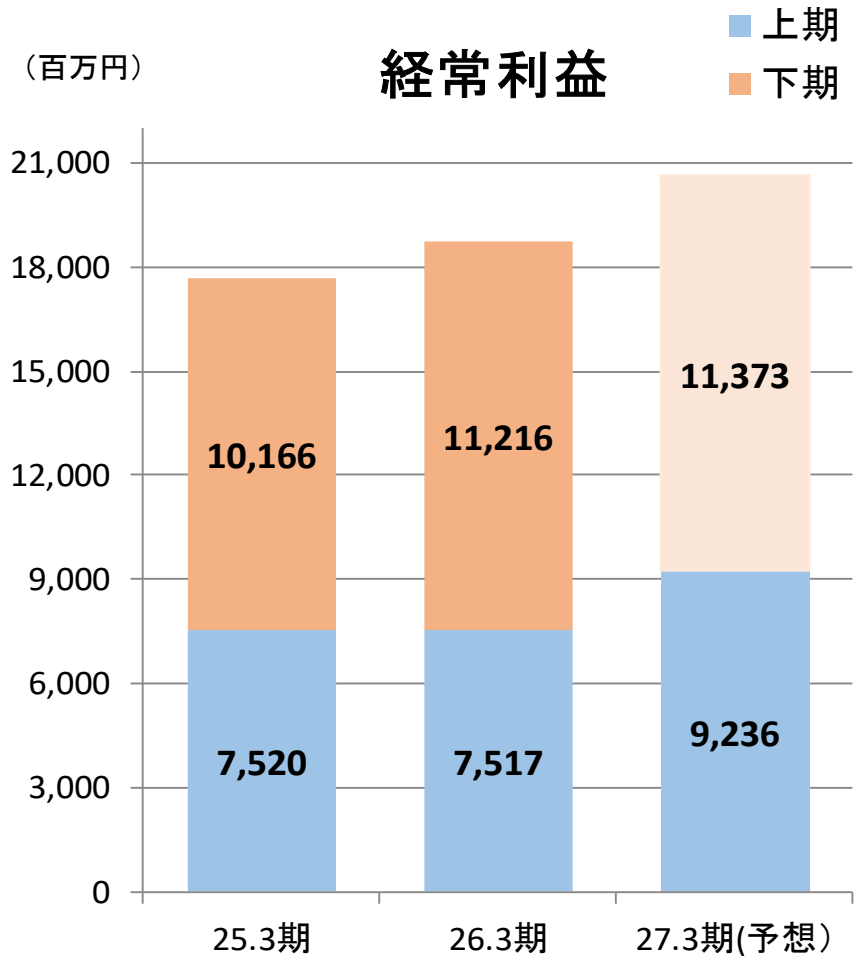
2027年3月期 業績予想（セグメント別）

（百万円、%）	売上高				営業利益		
	26/3期	27/3期予	増減額	増減率	26/3期	27/3期予	増減額
シュクレイグループ	37,054	39,700	2,645	7.1	7,087	7,760	672
ケイシイシイグループ	23,184	24,800	1,615	7.0	4,833	5,350	516
寿製菓グループ	16,298	17,550	1,251	7.7	3,823	4,267	443
販売子会社	7,804	8,310	505	6.5	1,089	1,198	108
その他	674	700	25	3.8	28	28	△0
セグメント計	85,016	91,060	6,043	7.1	16,862	18,603	1,740
調整額	△ 6,235	△ 6,560	△ 324	5.2	1,735	1,947	211
合計	78,781	84,500	5,718	7.3	18,598	20,550	1,951

2027年3月期 業績予想（上期・下期比較）

27/3期上期は実績数値





（百万円、%）	売上高						経常利益					
	25/3期	構成比	26/3期	構成比	27/3期（予）	構成比	25/3期	構成比	26/3期	構成比	27/3期（予）	構成比
上期	32,906	45.5%	35,787	45.4%	39,651	46.9%	7,520	42.5%	7,517	40.1%	9,236	44.8%
下期	39,443	54.5%	42,993	54.6%	44,848	53.1%	10,166	57.5%	11,216	59.9%	11,373	55.2%
通期	72,349	100.0%	78,781	100.0%	84,500	100.0%	17,686	100.0%	18,733	100.0%	20,610	100.0%

27/3期上期は実績数値

今後の経営方針とセグメント別業績の概況

経営理念・基本ポリシー

経営理念

喜びを創り喜びを提供する

当社グループの経営理念は、創業者であります故河越庄市をはじめ、諸先輩方が幾多の試練を乗り越えてこられた中、生まれました。利潤の追求のみが企業の目的ではなく、会社が未来永劫発展し続けるためには、常に「人様に喜んでいただく」ことを最優先に考え、お客様に喜んでいただける商品を創り、お客様に喜ばれるサービスを提供し続け、地域社会への貢献、共存・共栄こそが、会社の存在意義であり、当社グループに与えられた使命であります。

基本ポリシー

今日一人、熱狂的なファンを創る

当社グループの全従業員は、経営理念の具現化に向け、ひとつのお菓子、ひとりのお客様への接客で、一生お付き合いができる熱狂的なファンを今日一人創ることに徹する「熱狂的ファン創り」を基本ポリシーとしております。

≪経営理念手帳「こづち」について≫

当社グループは、経営哲学（フィロソフィー）を明文化した経営理念手帳「こづち」を作成し、全従業員の経営理念浸透と企業倫理の徹底に努めております。
経営理念手帳 「こづち」は、各職場単位で行う朝礼や研修、勉強会などで活用し、また、経営理念の実践の成果を全従業員が共有し、さらなる大きな成果を生み出していくことを目的に 「こづち発表全国大会」を年１回開催しております。





2026年1月「こづち発表全国大会」を開催

ビジョン（目指すべき方向性）

全国各地のプレミアムギフトスイーツブランドを創造する

「お菓子の総合プロデューサー」

General Producer of the Sweets

当社グループは、「お菓子の総合プロデューサー」として、「高い価値の創造」をテーマに、美味しさと地域性を追求した「プレミアムギフトスイーツ」の創造と育成を推進し、地域社会への貢献・共存・共栄を図り、社会から信頼され必要とされる企業集団を目指してまいります。







寿スピリッツグループ2026年経営スローガン

今日一人熱狂的ファンを創る

これは私たち全員の日々の仕事であり、経営の目的であり、経営理念「喜びを創り喜びを提供する」の実践項目です。昨日より今日、今日より明日、日々シンカし続ける考動が、一つのお菓子で、また一度の接客を通じて、一生続く熱狂的なファンを創る。





中長期の経営目標（Value Up Vision 2030）

●成長ストーリー

経営理念をベースとした

「全員参画による超現場主義経営」の更なる推進

当社グループは、経営理念を拠り所に、従業員一人ひとりが当事者意識をもって経営に参画する「全員参画による超現場主義経営」の徹底実践により人的資本経営を推進。活力ある魅力あふれる企業集団を創造し、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。





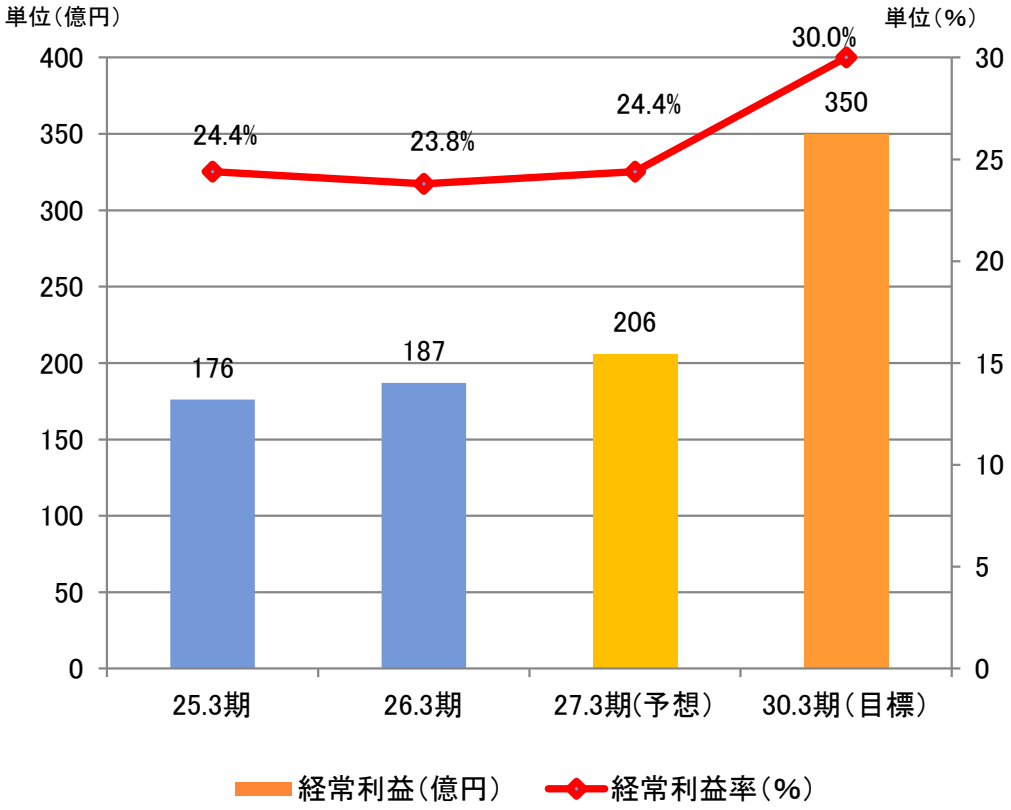
中長期の経営目標（Value Up Vision 2030）

●重点対策

・商品力、売場力、販売力のValue Up
・インバウンド対策のValue Up
・人財力のValue Up

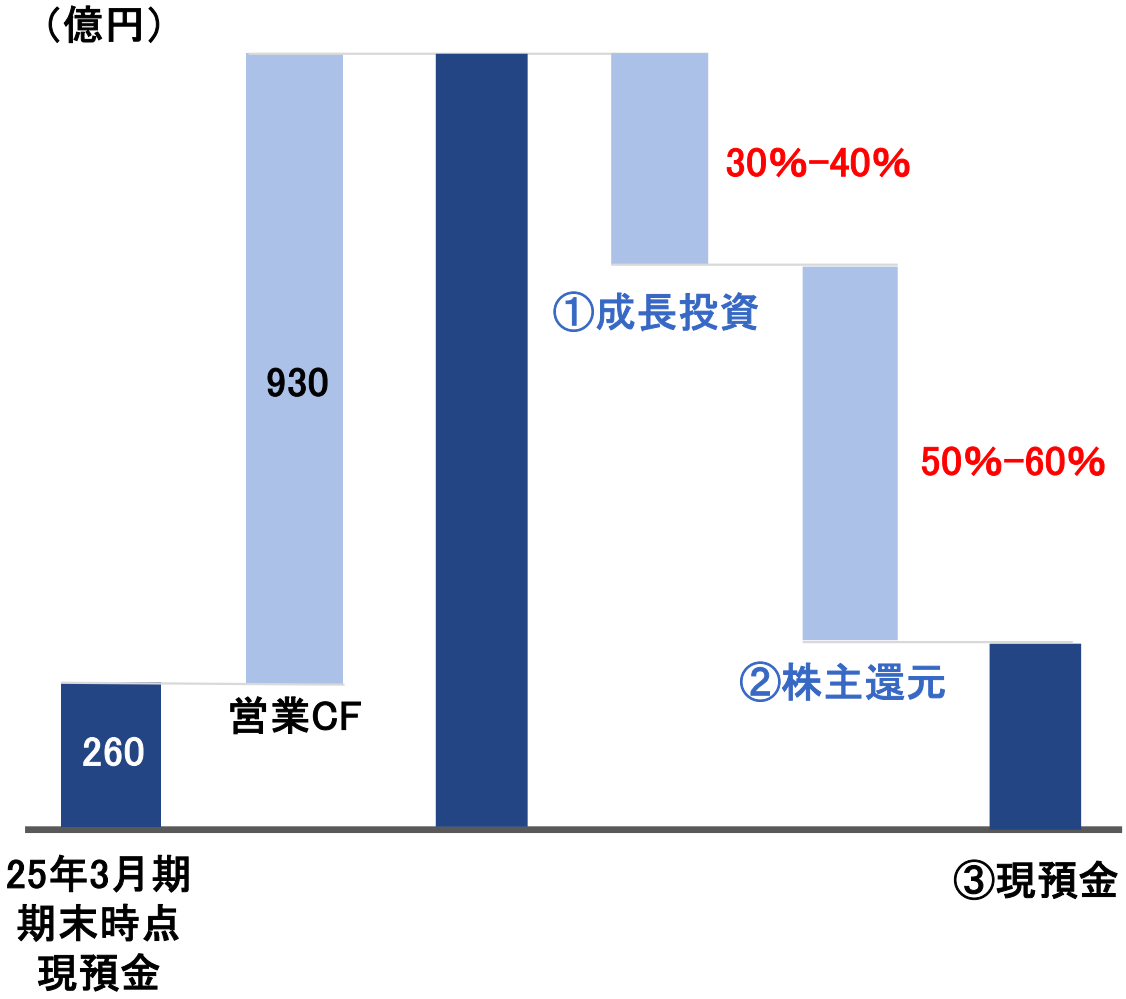
●目標指標

・ 経常利益率 30%（2030年3月期）
・ 経常利益 350億円（2030年3月期）
・ 5ヵ年の平均売上成長率 10%
・ ROE30%以上



●キャッシュアロケーション方針

（26年3月期から30年3月期の5年間）
創出するキャッシュを更なる成長投資・株主還元に投入し、更なる収益性の向上により高ROE経営を推進。中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。



①成長投資
工場投資（既存工場の維持、更新含む）、出店投資やM＆A等による新たな成長投資

②株主還元
総還元性向50%以上を意識し、利益成長に応じた増配と機動的な自己株式取得を実施

③現預金
売上の30%程度を目安に手元流動性を確保

セグメント別概況

- シュクレイグループ

  （シュクレイ/九十九島グループ）

- ケイシイシイグループ

  （ケイシイシイ/箱根ときのみ）

- 寿製菓グループ

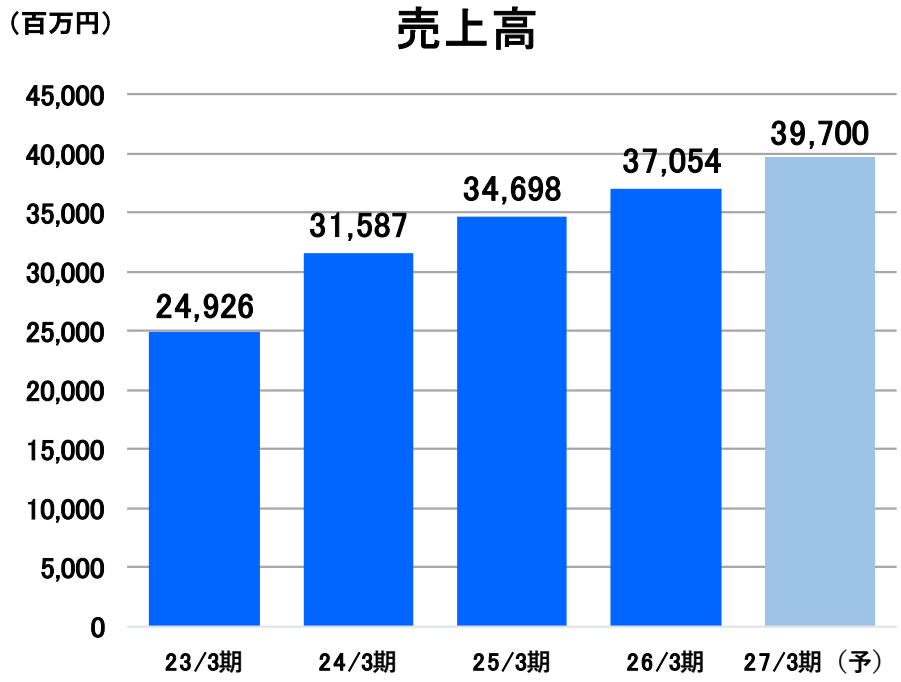
  （寿製菓/但馬寿/ケーエムエフ）

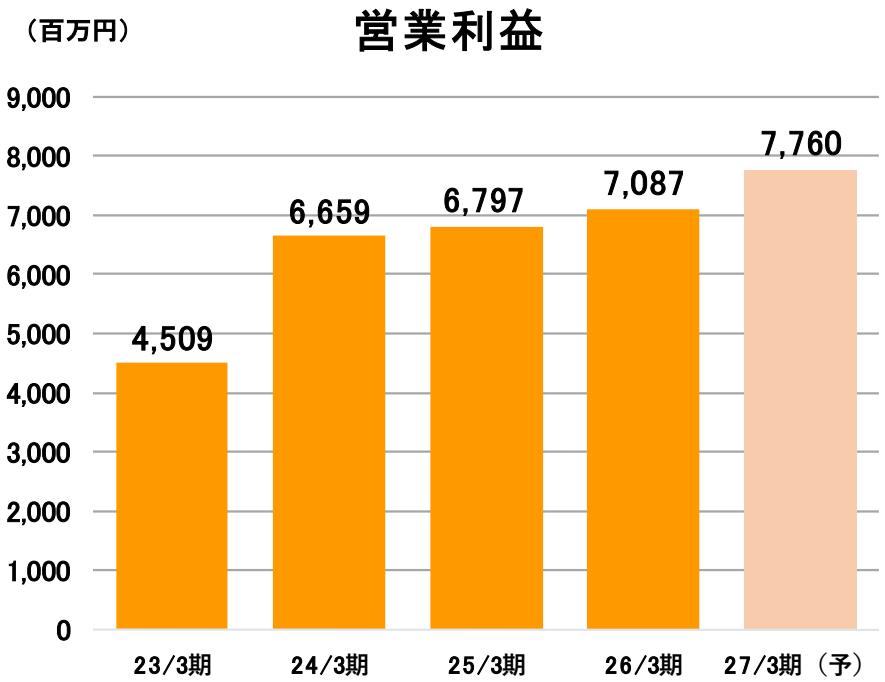
- 販売子会社

- その他

≪シュクレイグループ≫

27/3期予想：売上高 39,700百万円（前期比＋7.1%）営業利益 7,760百万円（同＋9.5%）





（百万円,%）	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期	対前期		27/3期（予）	対前期	
	金額	金額	金額	金額	増減額	増減率	金額	増減額	増減率
売上高	24,926	31,587	34,698	37,054	2,356	6.8	39,700	2,645	7.1
売上総利益	15,587	20,424	22,286	23,918	1,631	7.3	25,950	2,031	8.5
粗利率	62.5	64.7	64.2	64.5	0.3	－	65.4	0.8	－
販売管理費	11,077	13,765	15,489	16,830	1,341	8.7	18,190	1,359	8.1
営業利益	4,509	6,659	6,797	7,087	289	4.3	7,760	672	9.5

≪シュクレイグループ≫

現場力の更なる強化により、主力ブランドを中心にブランド価値の向上と、新ブランドによる好立地出店などにより成長を加速する。



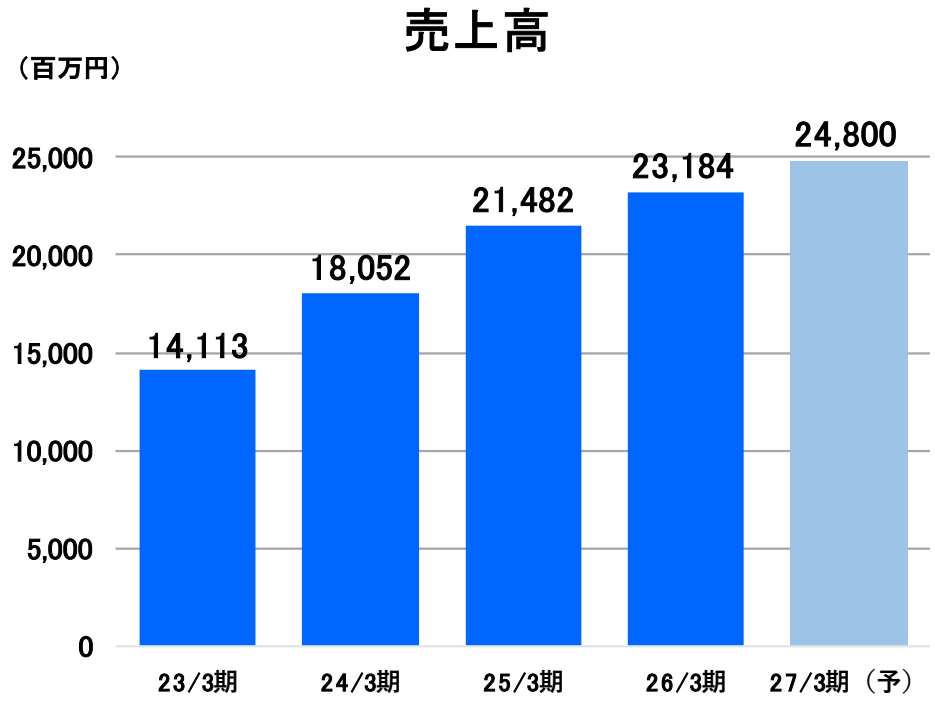
Butter Butler（バターアマンディーヌ ）

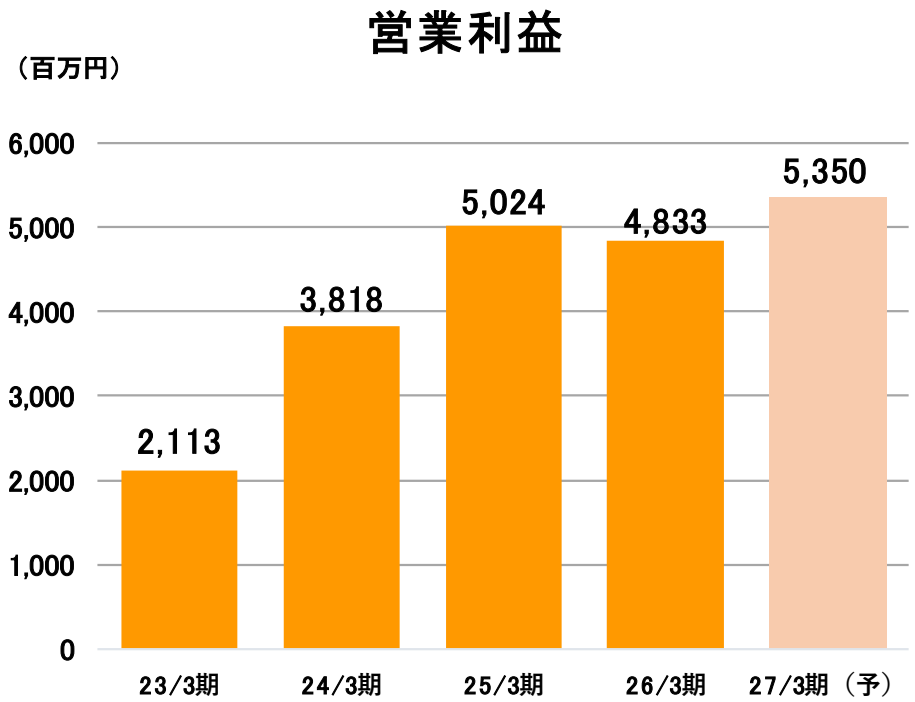


VANI（ブランデーケーキ）

≪ケイシイシイグループ≫

27/3期予想：売上高 24,800百万円（前期比＋7.0%）営業利益 5,350百万円（同＋10.7%）





（百万円,%）	23/3期 金額	24/3期 金額	25/3期 金額	26/3期 金額	対前期 増減額	対前期 増減率	27/3期（予） 金額	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	14,113	18,052	21,482	23,184	1,701	7.9	24,800	1,615	7.0
売上総利益	8,149	10,938	13,378	14,117	738	5.5	15,330	1,212	8.6
粗利率	57.7	60.6	62.3	60.9	△ 1.4	－	61.8	0.9	－
販売管理費	6,035	7,120	8,354	9,283	928	11.1	9,980	696	7.5
営業利益	2,113	3,818	5,024	4,833	△ 190	△ 3.8	5,350	516	10.7

≪ケイシイシイグループ≫

30周年を迎えたケイシイシイは、小樽洋菓子舗LeTAO
の更なるブランド価値の向上と、「ピスタ&トーキョー」、「ナウオンチーズ♪」
「岡田謹製あんバタ屋」、「カナリナ」などの首都圏ブランドの育成に注力



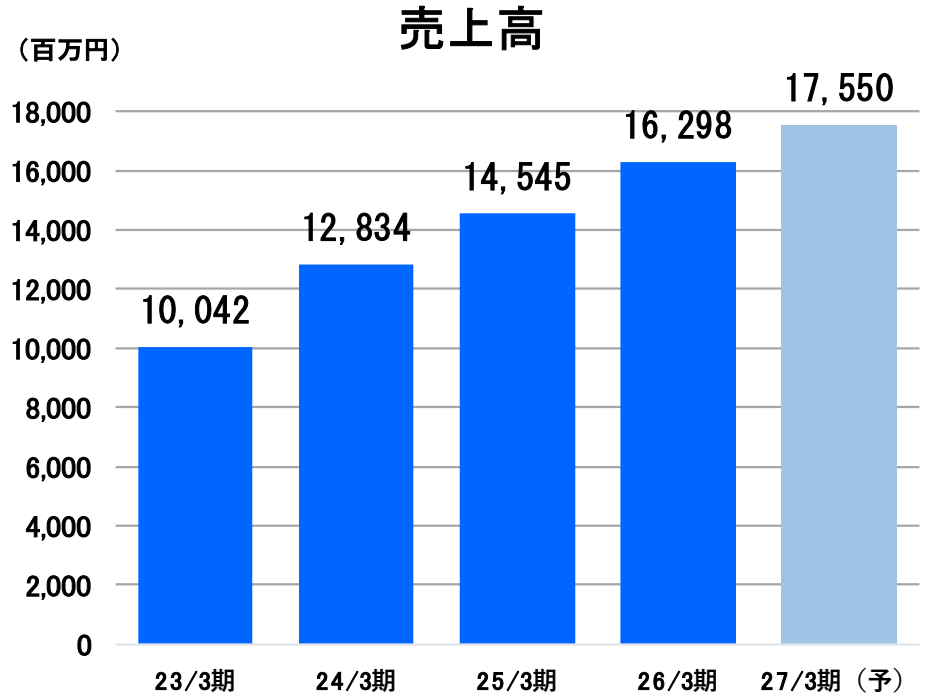
岡田謹製茶織屋（メロンパン抹茶づくし）

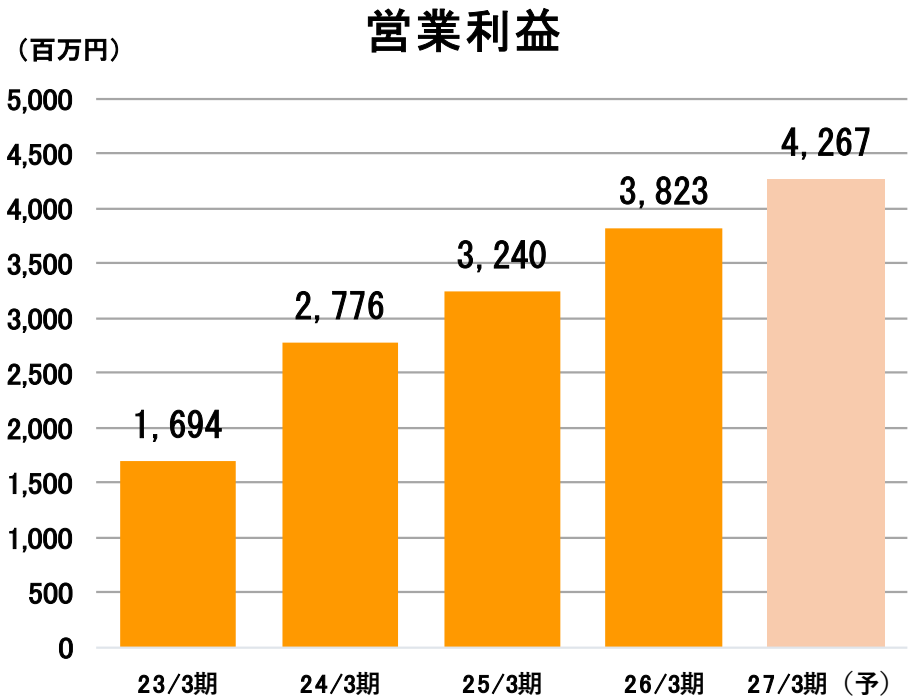


小樽洋菓子舗ルタオ（モンブラン エ クレーム）

≪寿製菓グループ≫

27/3期予想：売上高 17,550百万円（前期比＋7.7%）営業利益 4,267百万円（前期比＋11.6%）





（百万円,%）	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期	対前期		27/3期（予）	対前期	
	金額	金額	金額	金額	増減額	増減率	金額	増減額	増減率
売上高	10,042	12,834	14,545	16,298	1,752	12.1	17,550	1,251	7.7
売上総利益	3,952	5,355	6,104	6,954	849	13.9	7,647	692	10.0
粗利率	39.4	41.7	42.0	42.7	0.7	－	43.6	0.9	－
販売管理費	2,258	2,578	2,863	3,131	267	9.4	3,380	248	8.0
営業利益	1,694	2,776	3,240	3,823	582	18.0	4,267	443	11.6

≪寿製菓グループ≫

主力商品の育成及び新商品開発の推進、代理店との連携強化、2027年6月に稼働予定の宮古島工場の設置により沖縄展開を加速、更なる成長を目指す



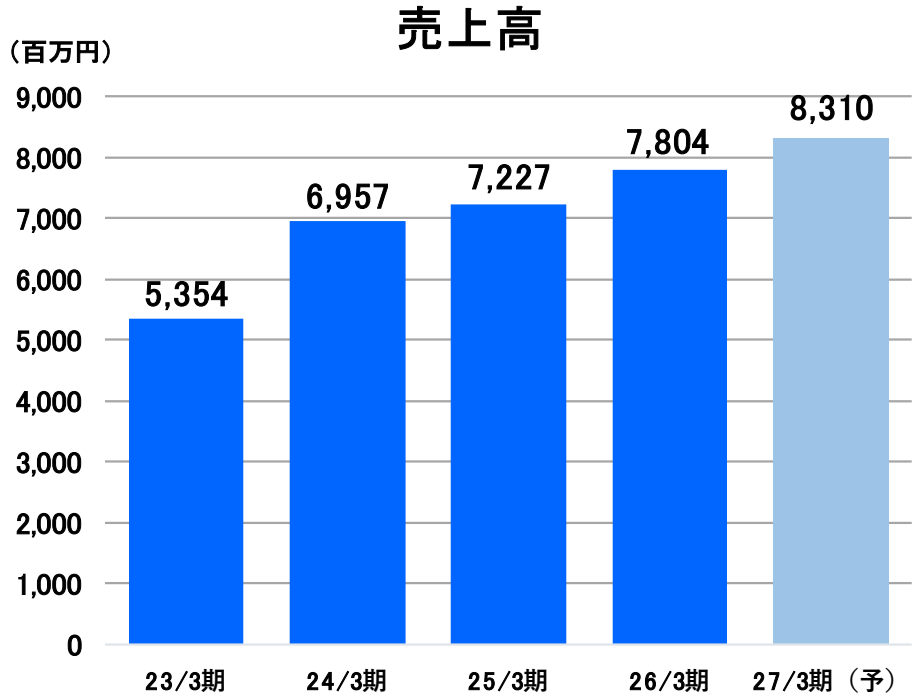
newQ（パパパパパインタルト）

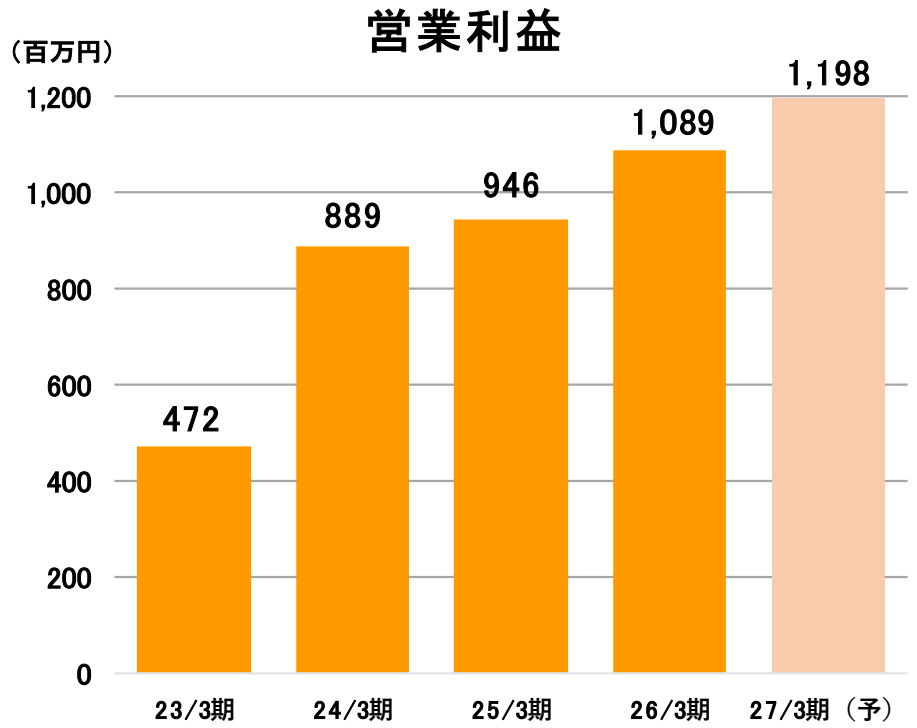


因幡の白うさぎ

≪販売子会社≫

27/3期予想：売上高 8,310百万円（前期比＋6.5%）営業利益 1,198百万円（前期比＋9.9%）





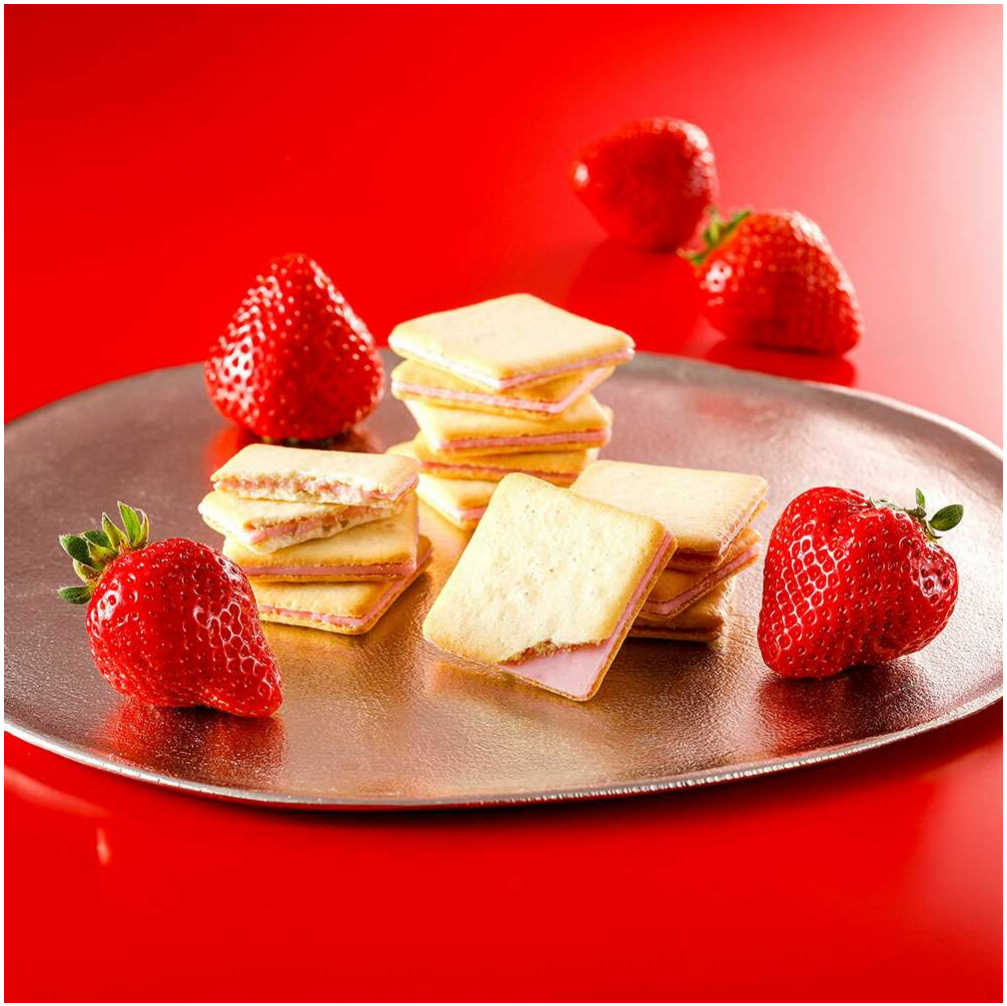
（百万円,%）	23/3期 金額	24/3期 金額	25/3期 金額	26/3期 金額	対前期 増減額	対前期 増減率	27/3期（予） 金額	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	5,354	6,957	7,227	7,804	576	8.0	8,310	505	6.5
売上総利益	2,012	2,637	2,796	3,042	246	8.8	3,290	247	8.1
粗利率	37.6	37.9	38.7	39.0	0.3	－	39.6	0.6	－
販売管理費	1,540	1,747	1,850	1,953	102	5.6	2,092	138	7.1
営業利益	472	889	946	1,089	143	15.1	1,198	108	9.9

≪販売子会社≫

makkana ichigo HAKATA

大阪 とらさんど

主力商品対策及び地域特性にマッチした新商品の発売に注力



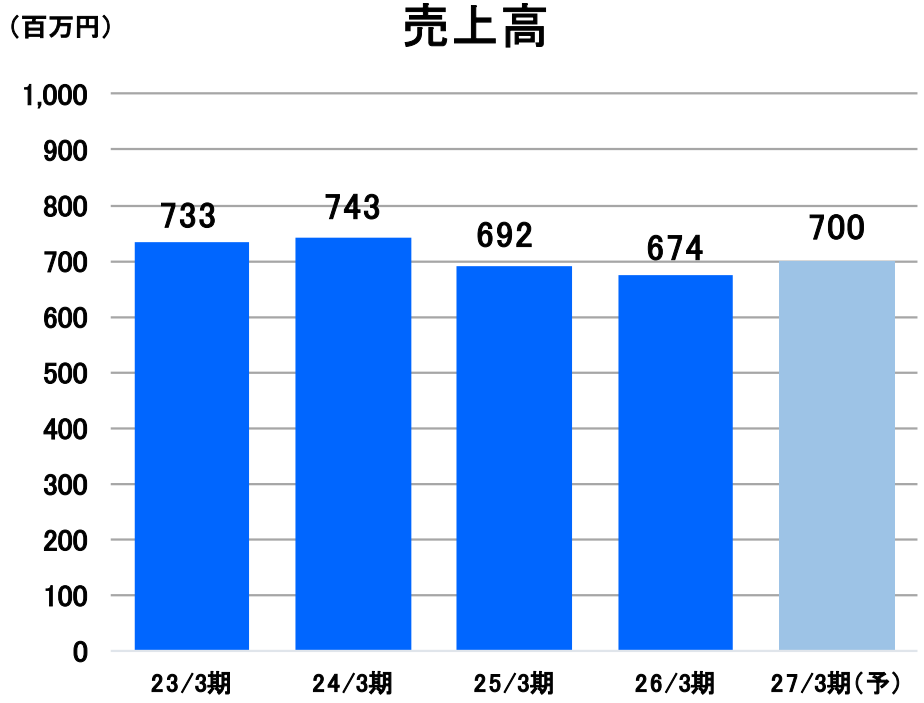
10周年を迎えた博多まっかな苺のラングドシャ

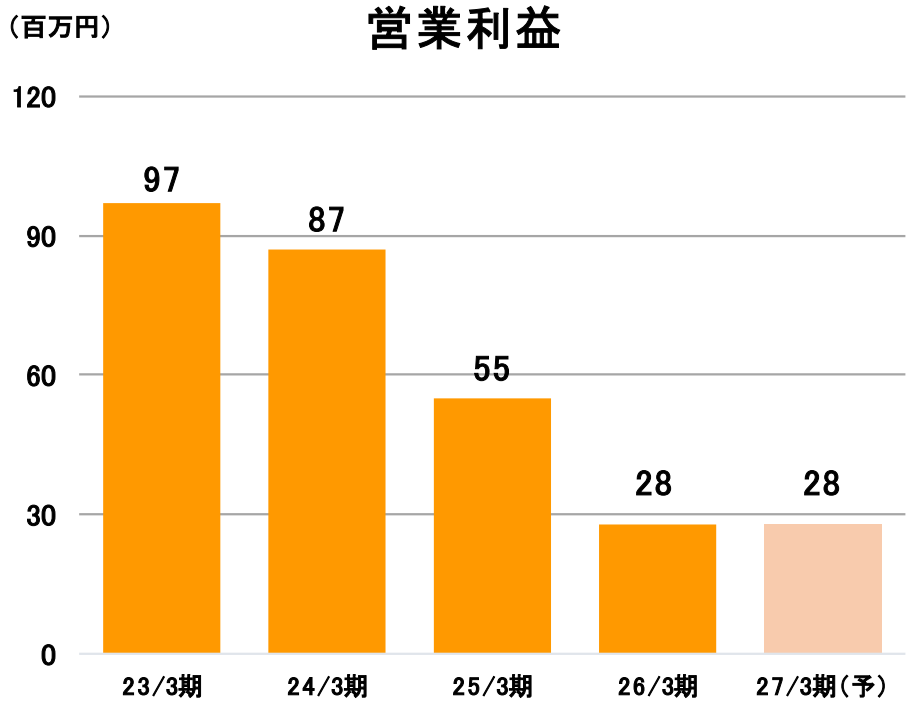


大阪とらさんど

≪その他≫ <損害保険代理業、健康食品事業、海外(台湾)菓子事業>

27/3期予想:売上高 700百万円(前期比＋3.8%)営業利益 28百万円(同△ 3.2%)





(百万円,%)	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期	対前期		27/3期(予)	対前期	
	金額	金額	金額	金額	増減額	増減率	金額	増減額	増減率
売上高	733	743	692	674	△ 18	△ 2.6	700	25	3.8
売上総利益	534	537	494	479	△ 15	△ 3.1	497	17	3.7
粗利率	72.8	72.2	71.4	71.1	△ 0.3	−	71.0	△ 0.1	−
販売管理費	437	449	438	450	11	2.6	469	18	4.2
営業利益	97	87	55	28	△ 26	△ 47.9	28	△0	△ 3.2

≪その他≫

純藍

台湾菓子事業



東京ミルクチーズ工場　台湾限定商品



ザ・メープルマニア　台湾限定商品

健康食品事業（純藍事業）





古来伝承素材「藍」を100%配合した健康茶『純藍茶』



ESG関連情報

ESG情報（マテリアリティの特定および統合報告書の発行）

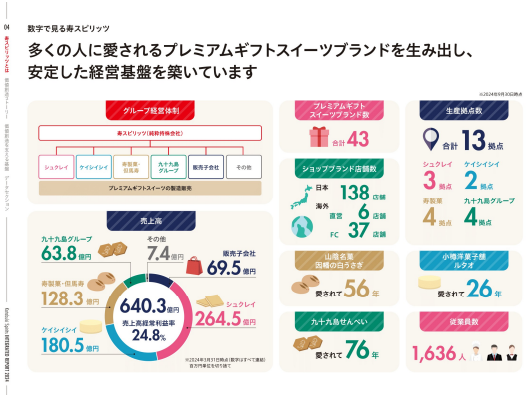
当社は、当社グループが様々な事業活動を推進していくうえで、持続可能な社会実現への貢献と中長期的な企業価値の向上が重要な経営課題であるとの認識のもと、2024年6月にはマテリアリティ（重要課題）を特定し、サステナビリティにおける取り組みを推進してまいります。

また、2026年11月に3年目となる統合報告書2026を公開しました。

統合報告書2026（日本語版・英語版）









寿スピリッツグループのマテリアリティ（重要課題）

① 持続可能な環境型社会への貢献
② 安心安全な製品の提供
③ 多様性を尊重した人財の採用と育成
④ 持続可能なサプライチェーンの構築
⑤ 地域社会との共存共栄
⑥ コーポレートガバナンスの強化

寿スピリッツグループ
サステナビリティサイト

こちらのQRコードでご覧いただけます

株式の状況・株主還元

株式の状況

●2026年度「JPXプライム150指数」「JPX日経インデックス400」構成銘柄に選定

当社は、株式会社JPX総研が算出する2026年度の「JPXプライム150指数」と株式会社JPX総研及び株式会社日本経済新聞社が算出する「JPX日経インデックス400」の構成銘柄として選定されました。

「JPXプライム150指数」は、東証プライム市場に上場する時価総額上位銘柄を対象に、財務実績に基づく「資本収益性」と将来情報や非財務情報も織り込まれた「市場評価」という、価値創造を測る二つの観点から選定した銘柄を「価値創造が推定される我が国を代表する企業」と位置付け、これらの銘柄により構成する株価指数です。

「JPX日経インデックス400」は、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成され、日本 企業の魅力を内外へアピールするとともに、その持続的な企業価値向上を促し、株式市場の活性化を 図ることを目的として開発された株価指数です。

JPX-NIKKEI 400

JPX PRIME 150

株式の状況

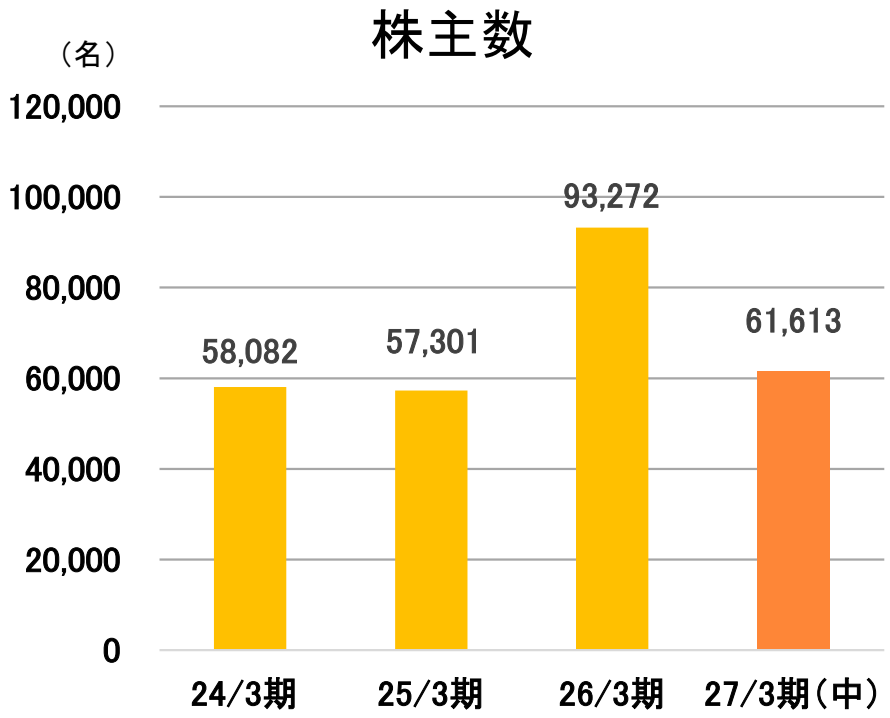
（2026年9月30日現在）

■発行可能株式総数　456,000,000株

■発行済株式総数　155,658,402株

■単元株式数　100株

■株主数　61,613名（前期末比 31,659名減）



株主名	持株数（株）	出資比率（%）
エスカワゴエ株式会社	45,500,000	29.45
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	13,565,400	8.78
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	7,111,102	4.60
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	5,030,700	3.26
INDUS SELECT MASTER FUND, LTD.	4,425,400	2.86

（注）出資比率は、自己株式1,164,113株を除く

株主還元

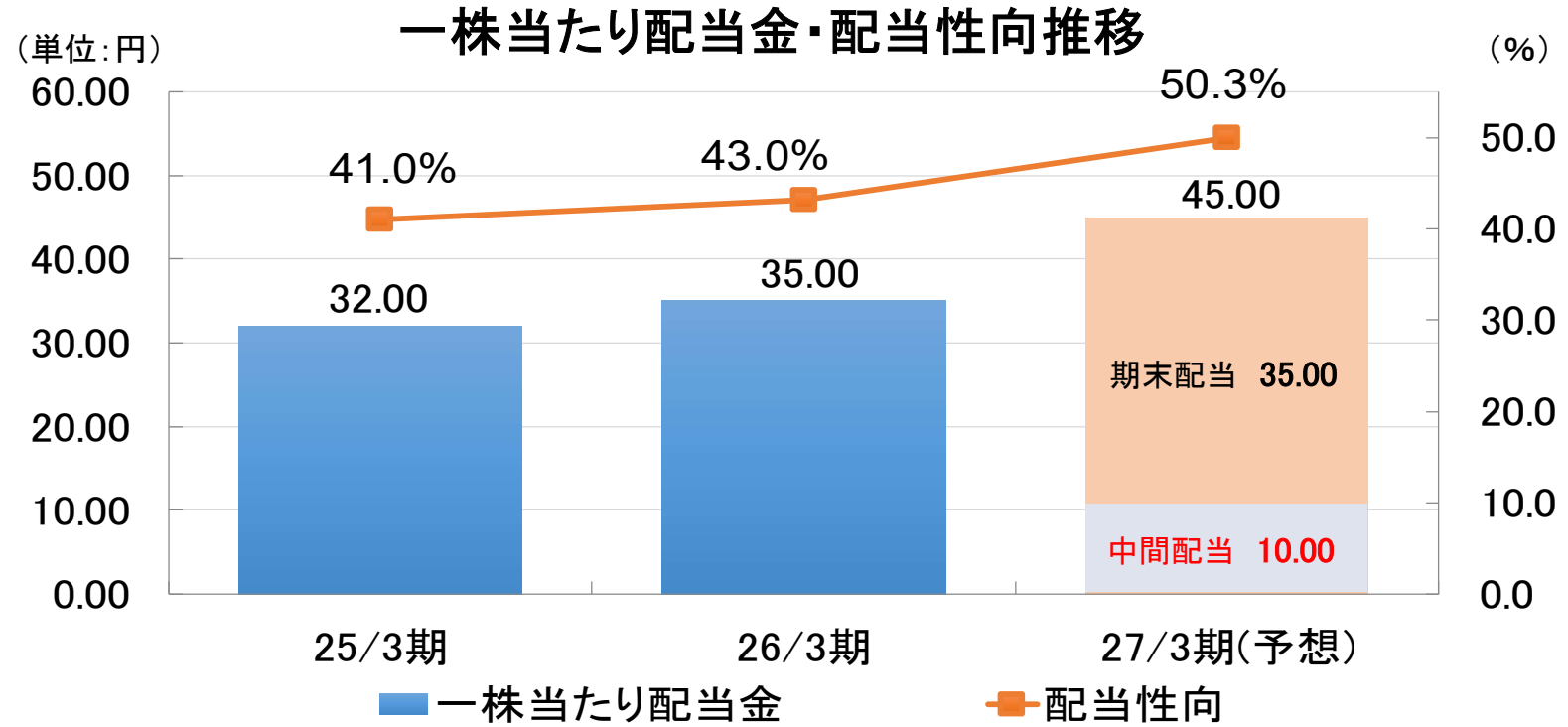
■配当方針

長期にわたり、安定して利益還元ができるよう、内部留保、業績水準ならびに配当性向等を総合的に勘案し、利益還元に努めることを基本方針としております。

2026年3月期から2030年3月期の株主還元につきましては、総還元性向50%以上を意識し、利益成長に応じた増配と機動的な自己株式取得を実施する方針としております。

なお、当期より株主の皆様への利益還元機会の充実の観点から中間配当を導入いたします。

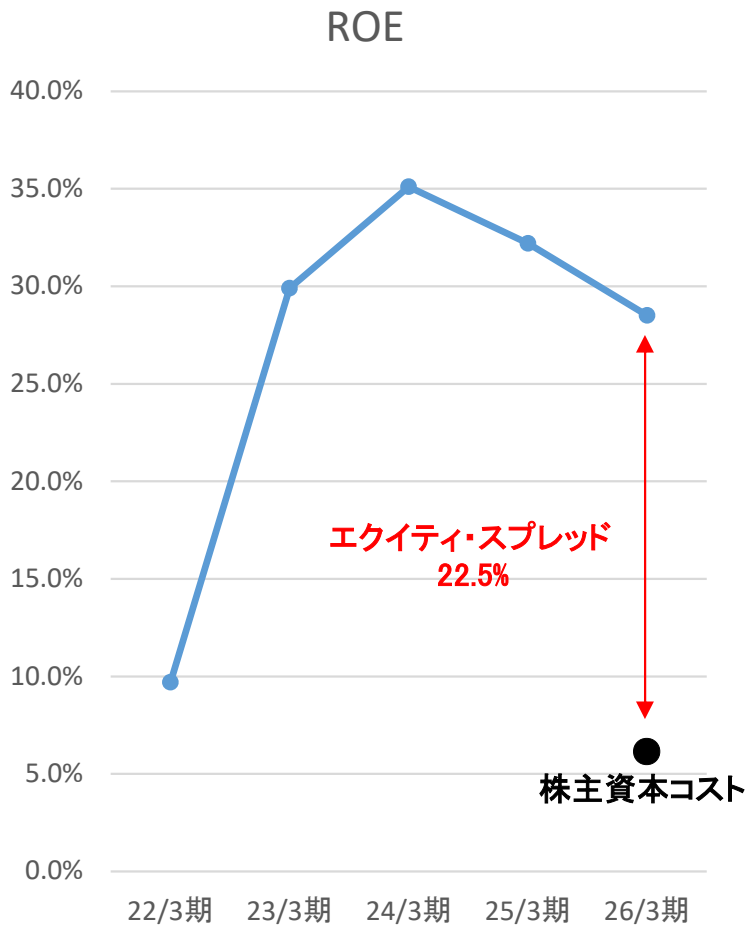
■ 2027年3月期 1株当たり配当金予想　45.00円



資本コストや株価を意識した経営への対応

■資本収益性の分析

株主資本コストをCAPM（資本資産価格モデル）で算出し、概ね6%程度と認識しております。ROEは、24/3月期は35.1%、25/3月期は32.2%、26/3月期は28.5%となり、株主資本コストを大きく超えて推移いたしております。今後もROE30%以上を目標にさらなる収益性の向上に努め、高ROE経営を推進し、企業価値の向上に努めてまいります。



	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期
ROE	9.7%	29.9%	35.1%	32.2%	28.5%
ROE分解					
売上高純利益率	6.0%	14.0%	16.9%	16.8%	15.9%
総資産回転率（回）	1.23	1.56	1.53	1.47	1.41
財務レバレッジ（倍）	1.32	1.37	1.35	1.31	1.27

$$\text{ROE} = \underbrace{\frac{\text{純利益}}{\text{売上高}}}_{\text{【収益性】}\ \text{売上高純利益率}} \times \underbrace{\frac{\text{売上高}}{\text{総資産}}}_{\text{【資産効率性】}\ \text{総資産回転率}} \times \underbrace{\frac{\text{総資産}}{\text{自己資本}}}_{\text{【財務レバレッジ】}\ \text{財務レバレッジ}}$$

株主資本コスト（%） 26/3期

リスクフリーレート		ベータ（β）感応度		リスクプレミアム		株主資本コスト
安全資産・無リスク金利 ※10年国債利回りを ベースに設定	×	当社固有のリスク	×	株式投資に期待する超過収益率※過去の株式市場リターンから設定	=	5.99% CAPMより算出

資本コストや株価を意識した経営への対応

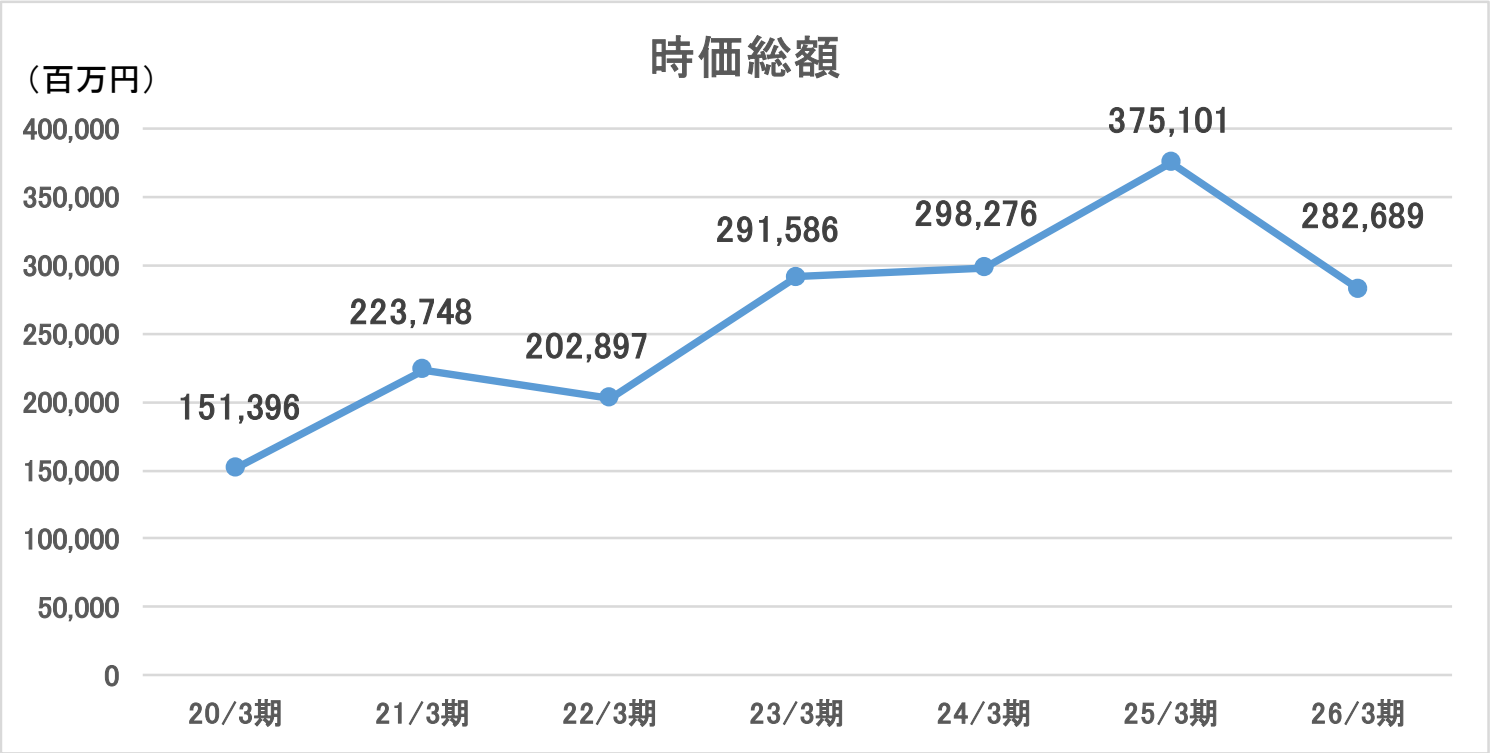
■市場評価（PER、PBR）

26/3期末のPBR（株価純資産倍率）は5.90倍と1倍を大きく超えております。

	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期
PER	36.92	－	105.91	41.55	27.54	31.15	22.51
PBR	7.15	11.57	9.97	11.00	8.47	9.36	5.90

（注）21/3期のPERは、当期純損失のため非表示

■市場評価（時価総額）



（注）時価総額＝期末株価×（発行済株式数－自己株式数）

寿心

《参考情報》

会社概要

商号	寿スピリッツ株式会社
証券コード	2222（東証プライム）
会社所在地	〒683-0845 鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
設立	1952年4月25日
資本金	12億6,324万円
代表取締役社長	河越　誠剛
従業員数	単体7名・連結1,823名
グループ会社	連結子会社19社（国内18社・海外1社）
連結売上高	787億円（2026年3月期）

2026年9月30日現在

沿革（1）

1952年4月　（昭和27年）鳥取県米子市角盤町に寿製菓株式会社を設立し、飴菓子等の製造を開始。

1959年4月　（昭和34年）観光土産菓子部門に進出。

1968年11月（昭和43年）銘菓″因幡の白うさぎ″を発売し、観光土産用菓子の高級化に取組む。

1972年4月　（昭和47年）石川県加賀市に株式会社コトブキを設立。その後西日本を中心に販売子会社を順次設立し全国に販売網を広げる。

1979年5月　（昭和54年）現在地（鳥取県米子市）に本社工場を新築移転。

1987年3月　（昭和62年）兵庫県美方郡新温泉町に株式会社但馬寿を設立。

1988年　　（昭和63年）地元特産の果物を使い、その土地限定で販売する『草冠のない菓子＝果子』をコンセプトに、他社との差別化展開を図る。【旅の味覚の演出家】

1993年4月　（平成5年）鳥取県米子市に製造工程を見学できる大型販売施設『お菓子の壽城』を設置。小売事業に本格着手。

1994年11月（平成6年）ジャスダック上場。

1996年4月　（平成8年）北海道千歳市に株式会社コトブキチョコレートカンパニー（現株式会社ケイシイシイ）を設立し北海道へ本格進出。製造拠点としてチョコレート、ラングドシャのアイテムが加わる。



“因幡の白うさぎ”



寿製菓㈱　本社工場



お菓子の壽城

沿革（2）

1998年6月	（平成10年）	創業100年老舗商標を譲受け、東京都中央区に 株式会社つきじちとせを設立。東京和菓子ブランド展開に着手。北海道小樽市に株式会社ケイシイシイが『小樽洋菓子舗ルタオ』を設置。洋菓子小売専門店立上げ。
2005年2月	（平成17年）	営業譲受けにより株式会社九十九島エスケイファーム他3社より菓子の製造・販売事業を継承し、株式会社九十九島グループスタート。
2006年10月	（平成18年）	寿スピリッツ株式会社に社名変更、会社分割により純粋持株会社体制に移行。
2011年12月	（平成23年）	東京都港区に株式会社シュクレイを設立。
2012年1月	（平成24年）	株式会社つきじちとせが、株式会社シュクレイに事業の一部を譲渡し解散。
2012年11月	（平成24年）	台湾台北市に台灣北壽心股份有限公司を設立。
2013年4月	（平成25年）	東京証券取引所市場第二部に上場。
2014年4月	（平成26年）	東京証券取引所の市場第一部に銘柄指定。
2014年9月	（平成26年）	東京都港区に純藍株式会社を設立。
2016年1月	（平成28年）	株式会社フランセの全株式を取得して子会社化。
2017年4月	（平成29年）	株式会社シュクレイが株式会社フランセを吸収合併。
2022年4月	（令和4年）	東京証券取引所の市場区分見直しにより、プライム市場へ移行。
2024年7月	（令和6年）	沖縄県宮古島市に株式会社ケーエムエフを設立。
2026年4月	（令和6年）	株式会社箱根ときのみを設立。



小樽洋菓子舗ルタオ



“九十九島せんべい”

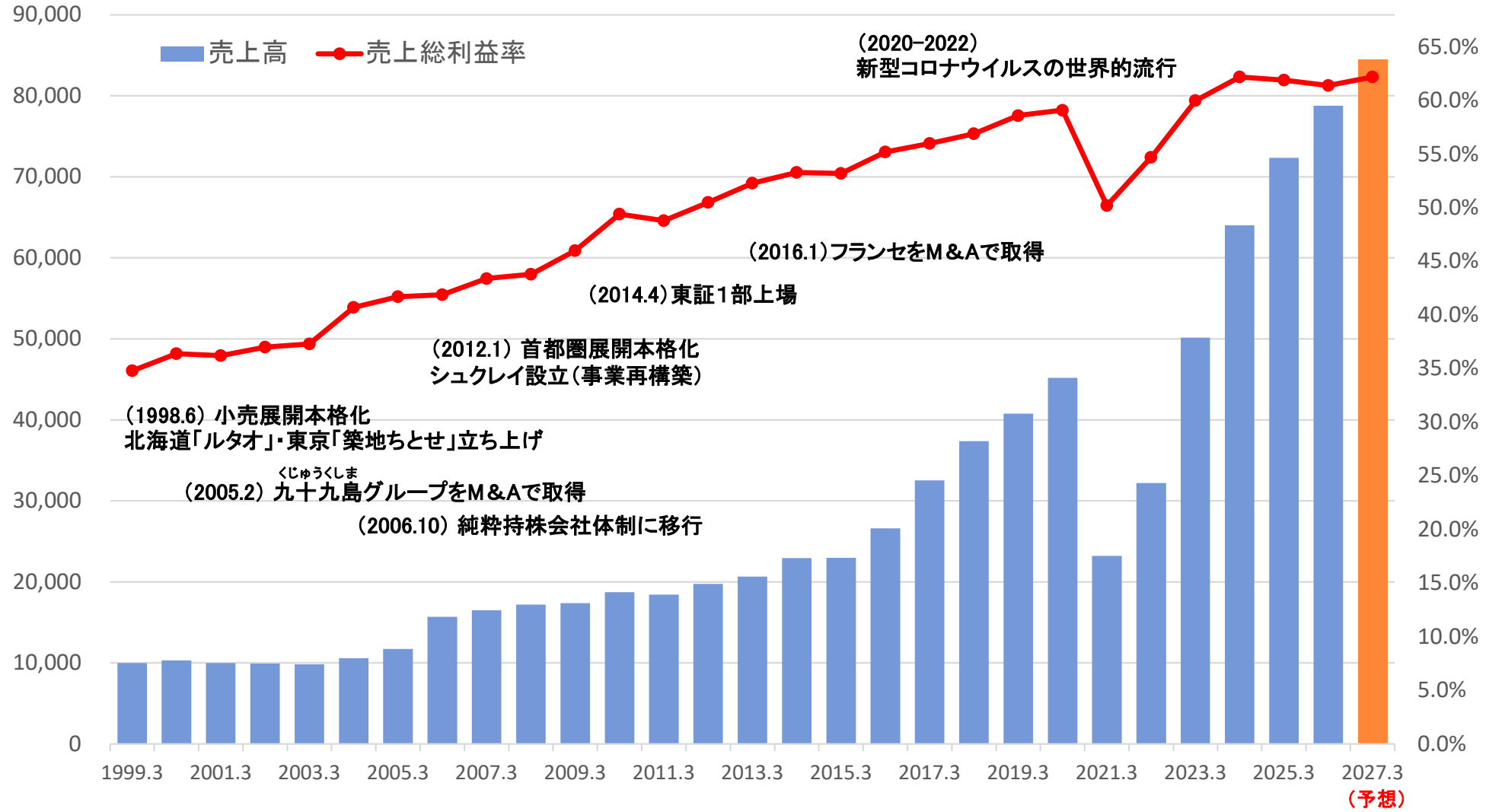


洋菓子のフランセ

寿スピリッツグループの変遷①

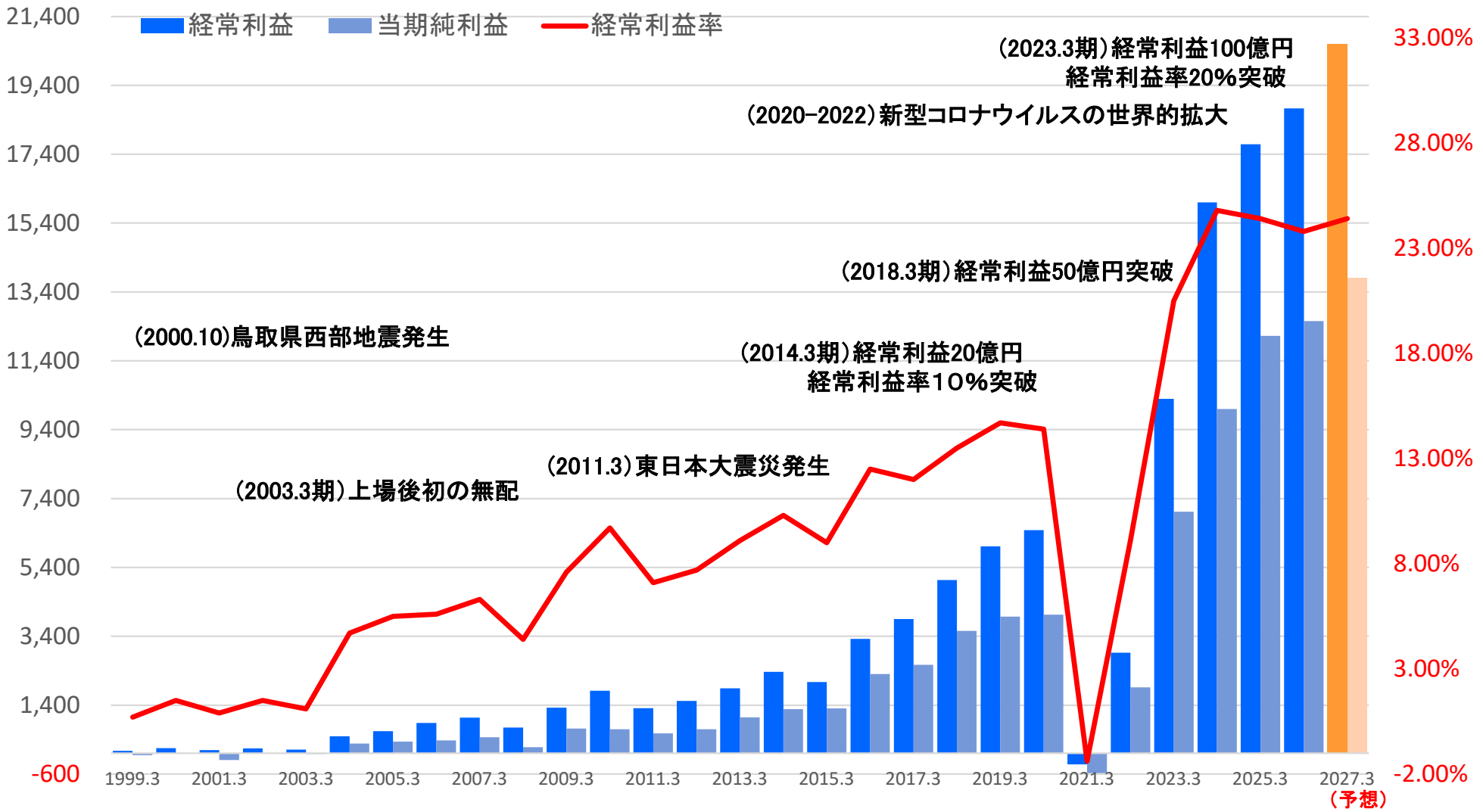
製造卸から製造小売型経営への変革により、高粗利率経営を実現

単位：百万円



寿スピリッツグループの変遷②

2026年3月期 経常利益率は23.8%となり、高い収益性を実現



主要ショップブランド

お菓子の壽城



（山陰）

炎 KÄnoZA IZUMO

Nostalgic Modern. LeTAO ＊Northern Sweets Manner＊

（北海道）

Akai Fusen 赤い風船 PATISSERIE

（佐世保・福岡）

東京ミルクチーズ工場

（東京）

Butter Butter

（東京）

makkana ichigo HAKATA

KK Konditorei Kobe

（神戸）

KYOTO VENETO MEETING FROM ITALY TO KYOTO

（京都）

The MAPLE MANIA FINE SWEETS STORE

（東京）

FRANÇAIS

（東京）

主力商品一例



Nostalgic Modern
LeTAO
＊Northern Sweets Manner＊

「ドゥーブルフロマージュ」



寿製菓株式会社「因幡の白うさぎ」



「ソルト＆カマンベールクッキー」







FRANÇAIS

「果実をたのしむミルフィユ」

Butter Butter

「バターフィナンシェ」

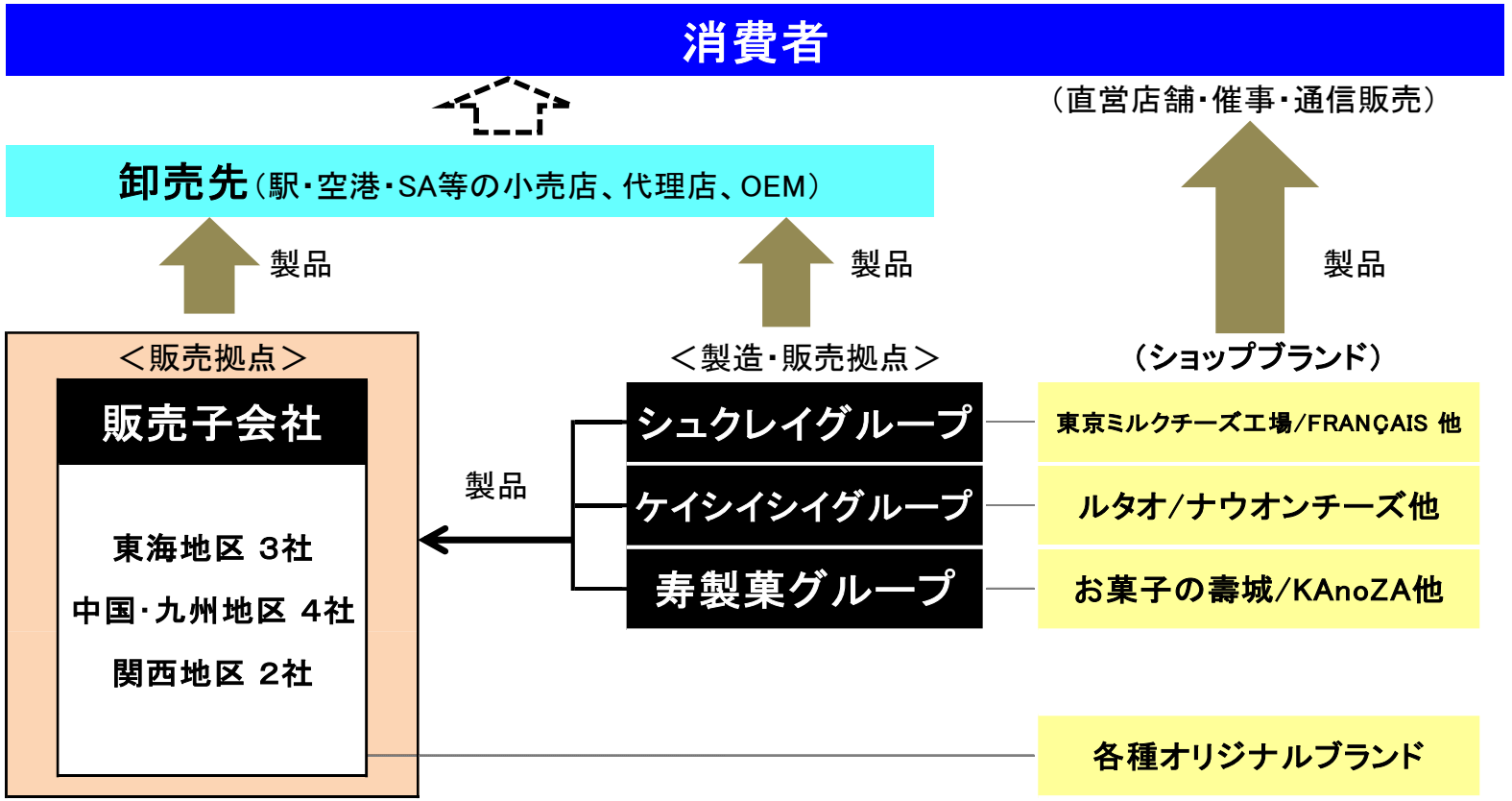
九十九島せんぺい

「九十九島（くじゅうくしま）せんぺい」

事業概要

当社グループは、当社（純粋持株会社）・子会社19社で構成。
事業セグメントは、地域事業会社を基礎に区分。（地域事業会社の連合体）
北海道から沖縄に至る全国を網羅した販売プラットホームと製造拠点の強みを活かし、企画・製造・販売までの一貫したサービスを提供。

[事業系統図]



注：上図には、寿スピリッツ（純粋持株会社）は除いている。

グループ生産体制



本社工場



浦津工場



淀江工場（お菓子の壽城）



第1工場



第2工場



但馬工場

寿製菓
本社工場
浦津工場
淀江工場
但馬工場　※全工場でISO22000取得



ケイシイシイ
第1工場　FSSC22000認証取得
第2工場　FSSC22000認証取得
（AIBフードセーフティー監査システム導入）



福浦工場



浜松工場



黒髪工場



卸団地工場

シュクレイ
横浜工場　FSSC22000認証取得
浜松工場　FSSC22000認証取得
富士山静岡工場　FSSC22000認証取得



富士山静岡工場

シュクレイ
（旧九十九島グループ工場）
黒髪工場　FSSC22000認証取得
卸団地工場　FSSC22000認証取得



熱狂的ファンづくりの取り組み事例

「熱狂的ファンづくり」とは、経営理念「喜びを創り喜びを提供する」
の行動指針を言い表した標語です。

≪寿スピリッツ≫

●2026年10月16日、NHKエデュケーショナル主催のイベント「若者の心と体の健康応援フェスタ」に協賛しました。









（注）写真は2025年開催の同フェスタ

≪寿スピリッツ≫

寿心

● 2026年4月 当社グループでは124名の新たな即戦力社員が加わりました。



2026年4月　シュクレイグループの入社式及び決起大会

≪寿製菓≫

寿製菓株式会社
KOTOBUKI SPIRITS GROUP

●2026年6月　オーブンの更新を機に、見学通路のデザインをリニューアル

寿製菓では、因幡の白うさぎ焼成用オーブンの更新に合わせて、小学生向けの見学用通路のデザインをリニューアルしました。今まで以上に楽しく見学していただくようになりました。







≪ケイシイシイ≫

●2026年7月　ケイシイシイは、「同志の心に火をともす」をテーマに新たな社内イベント「THE KCC PARTY2026」を開催しました。









ケイシイシイ
kcc
kcc co.,ltd.

≪ケイシイシイ≫

●ケイシイシイは、創業30周年を迎え、これまで私たちの成長を支えて下さった千歳の街に対しての恩返しとして、新千歳空港開港100周年をお祝いし千歳エリア限定商品「COOORN（コーーーーン）」の発売、およびレバンガ北海道の試合観戦チケットプレゼントキャンペーンの共同発表会を開催しました。



≪ケイシイシイ≫

●7月1日、新千歳空港ソフト・アイスクリーム総選挙2026の結果が発表され、小樽洋菓子舗ルタオはプレミアム部門1位と、個性派フレーバー部門2位を受賞しました。



■プレミアム部門1位
ムースフロマージュパルフェ



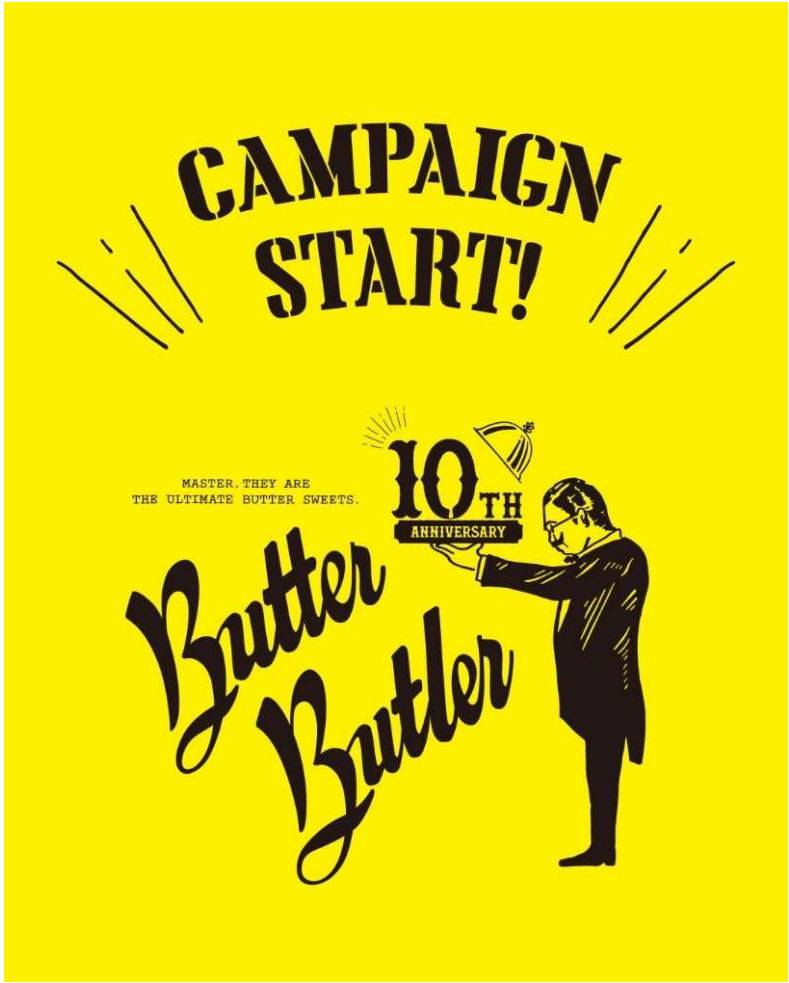
■個性派フレーバー部門2位
クレームグラッセ スイートコーン

≪シュクレイ≫

SUCREY
AOYAMA

●2016年4月15日、NEWoMan新宿の開業とともに始まった「Butter Butler」が多くのお客様に支えられ、ついにブランド誕生10周年の節目を迎えました。2026年は”Butter Butler year”！お客様への感謝を込めたキャンペーンや、新しい仕掛けを年間通して次々と展開してまいります。

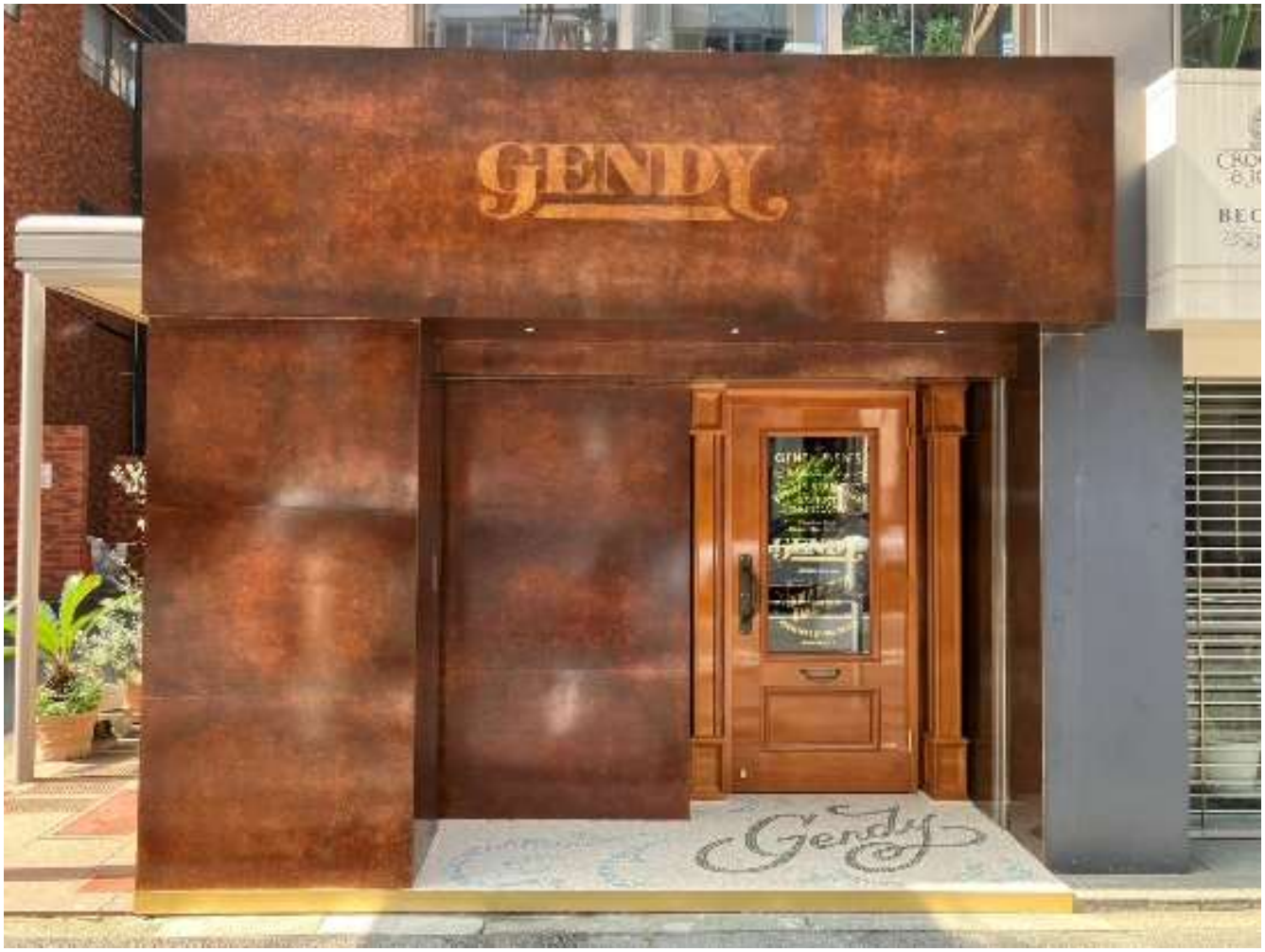


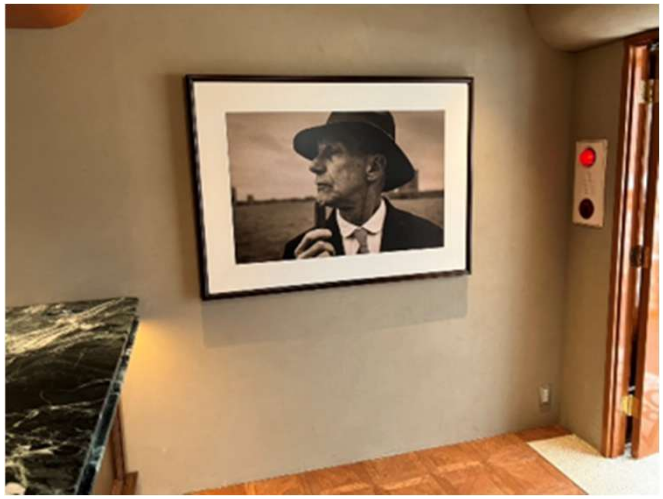


≪シュクレイ≫

SUCREY
AOYAMA

●2026年9月16日、GENDY青山店が移転リニューアルオープン。オープンから10周年を記念して「ザ プレミアム ビター キャラメルバー フランボワーズ」を100箱限定で復刻販売いたしました。







≪九十九島グループ≫

●2026年5月、「第12回マイングNo.1おみやげ決定戦」開催され和菓子部門では、昨年12月にオープンした「博ったらし」の「みたらし饅頭」が、初エントリーにして見事第1位を受賞しました。
洋菓子部門では、「赤い風船」の「博多いちごいちご」が2年連続となる第1位を、「BUTTER&bee」の「バターミルフィユあまおう苺」が第2位を受賞しました。







